

6.6 軟体動物（淡水産・陸産貝類）



(1) 県内の軟体動物（淡水産・陸産貝類）の概要

軟体動物は海で多くの種に分化した。その中の一部が淡水域に入り、さらに陸上に生活域を広げた。淡水域は、海と比較すると水中の石灰分が少ないことから、常に貝殻の石灰質の溶出の可能性がある。また、海産貝類ではみられない繁殖方法をとる種もある。さらに、陸産貝類は、常に乾燥に対する適応の中で生活域を拡大してきた。現在、軟体動物は約 10 万種以上が存在すると考えられており、その内、淡水産が 1.2 万種、陸産が 3.5 万種といわれている。環境省編（1998）の「日本産野生生物目録（無脊椎動物Ⅲ）」によると、日本には淡水産貝類は、177 種・亜種（汽水産を含む）陸産貝類は 732 種・亜種が生息し、陸産貝類の大半が日本固有種である。

富山県の淡水種については布村（1988）が全国の約 2 割に相当する 31 種の汽水域を含む淡水貝を報告した。近年、遺伝子情報をもとに淡水産貝類の分類の再検討が行われたことにより、イシガイ科二枚貝の分類が見直され、富山県で記録された淡水産貝類は少なくとも 37 種になった。

富山県の陸産貝類については 1940 年に菊池勘左エ門により 77 種が報告された。その後の調査により、現在 110 種以上の陸産貝類が記録されている。富山県は山地のブナ林や海岸沿いの照葉樹林等、多様な植生及び陸産貝類が多い石灰岩地帯が存在することから、富山県の陸産貝類相は決して貧弱なものではないと考えている。

(2) 選定評価の方法

今回は山岳地や洞窟の調査など、調査対象となる地域や環境の幅が広がった。現在の生息状況を従前の知見と比較してその減少、危機の状態・程度を判断したが、絶滅のおそれの度合いに関して定量的な評価を行うための情報が少ないため、定性的な判断によってカテゴリーを決定した。その際に、生態的な特性から推測される生息地の減少、衰退や生息環境の変化や、近隣県や全国の情報などを参考に評価した。

(3) 選定種の概要

分布域や個体数が明らかに減少している種、生息環境が悪化して絶滅が危惧される種を中心に淡水種は絶滅＋野生絶滅 5 種、絶滅危惧Ⅰ類 3 種、絶滅危惧Ⅱ類 4 種、準絶滅危惧 5 種、情報不足 6 種であり、陸産種は絶滅危惧Ⅰ類 2 種、絶滅危惧Ⅱ類 3 種、準絶滅危惧 9 種、情報不足 19 種である。

(4) 絶滅の危機に追い込んでいる要因（減少要因）

富山県の淡水産貝類は、平野部を流れる河川や水田、用排水路、溜池を主な生息地としているので、いずれの場所も人為的な影響を受けやすい環境にある。これまでに、河川や用排水路はコンクリートに改修されたことにより、多くの淡水貝の生息地が消滅した。また、水田においても稲作技術の変化や水田の放置などの理由から、タニシ類をはじめ多くの淡水貝が死滅した。用水路の改修の際に、淡水二枚貝の保全をした上での実施も行われているが、元の生息環境に戻った事例はない。特に絶滅種としている種は、現在は富山新港となっている旧放生津潟周辺で確認された種が多い。富山県で記録されている外来種の淡水産貝類は、少なくとも 8 種にのぼる。その内、スクミリンゴガイは、根絶された。また、近年侵入した、コウロエンカワヒバリガイやイガイダマシは、生息が確認できなかった。

コモチカワツボについても、生息を広げていないと思われる。一方で、マシジミは、これまで絶滅危惧Ⅱ類に位置づけ、タイワンシジミとの交雑による絶滅を危惧してきた。しかしながら、最近の遺伝学的研究において、マシジミとタイワンシジミが同種という研究があることから、マシジミを情報不足に位置付けた。今後の研究の進展とシジミ類の生息状況の変化について、注視して行きたい。

陸産貝類の今回の富山県版のレッドデータブックの改正に伴う現地調査において、ニクイロシブキツボやオオウスイロヘソカドガイなど、新たに生息が確認された種については、評価対象種として扱った。一方で、再確認できなかった種が多く、多くの種を情報不足に位置付けざるを得なかった。今回の調査で、これまでたくさんの陸貝が記録された鹿島樹叢において乾燥化による生息環境の悪化が見られた。同様に環境が悪化した生息地も多数確認できた。今後、生息状況に注視してゆくとともに、引き続き情報収集を継続して行くことが望まれる。

(5) 種のリストの整理基準

和名、学名、種の並びなどの基準としたリストなどは福田（2021）の体系にしたがう。

【文献】

福田宏，2021．Biology and Evolution of the Mollusca で提唱された軟体動物の分類体系と和名の対応．Molluscan Diversity 6（2）：89-180．

(6) 謝辞・協力者

調査、写真の収集にあたり、富山県文化財室、氷見市教育委員会、女良公民館と清水孝則氏、そのほか大勢の方にお世話になりました。

（文責：高山茂樹）

マメタニシ (エゾタマキビ目・エゾマメタニシ科)
Parafossarulus manchouricus japonicus (Pilsbly, 1901)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅＋野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 IA 類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地(射水市古明神)が富山新港の建設に伴い消滅。生息が期待できる池や沼がない。富山県では過去 50 年以上、生息が確認されていない。

形態

殻高 12mm、殻径 8mm ほど。いわゆるタニシ形の小型巻貝。体層周縁は丸く、殻表に太いレール状の螺肋がある。ただし、螺肋がなく、平滑な個体もある。殻の色は黄褐色で、鈍い光沢がある。外唇は厚く、黒く縁取られる。石灰質の蓋を持つ。



撮影：高山 茂樹

国内の分布状況

本州と四国に分布するが、近年、愛知県や東海地域での生息記録がない(愛知県, 2020)。滋賀県琵琶湖や岡山県、福岡県では、比較的多産するが、他の地域では、減少傾向にある。別亜種が朝鮮半島や中国北部、シベリヤに分布する。富山県近県では、生息が確認されていた新潟県新潟市鳥屋野潟は確認が困難になっている(新潟県, 2001)。

県内の分布状況

現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

流れのほとんどない、水田や池沼などの水草や礫に生息する。産卵期は春から夏で、透明な寒天質の膜で覆われた卵塊を基質に産み付ける。

生存への脅威(減少の要因)

全国的には、湖沼開発による埋め立てや、農地の管理放棄による休耕田化、乾田化などにより生息地が減少している。富山県においても、開発により生息環境が失われたことから、長らく生息が確認されていない。

保全対策

小型で目立たない種であることから、本種の生息の可能性がある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

肺吸虫の中間宿主。日本固有種。

周辺の県での指定状況：新潟県(2021)絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県(2015)絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：3), 8), 31), 47), 63), 67), 81)

(文責：高山 茂樹)

ミズゴマツボ (エゾタマキビ目・ミズゴマツボ科)
Stenothyra japonica Kuroda, 1962

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地(射水市放生津潟)が富山新港の建設に伴い、生息環境が汽水から海水に変わったことで、生息環境が失われた。富山県では過去 50 年以上、生息が確認されていない。

形態

殻高 4mm の微小貝。殻は比較的厚く、楕円卵型で、背腹側に変形している。殻表は、鈍い光沢があり、半透明で帯緑褐色の殻皮が全面にある。また、螺旋管の巻きに沿って点刻が連続する。蓋は革質ながら石灰質を含み、比較的厚い。

国内の分布状況

岩手県・秋田県から九州及び朝鮮半島で記録がある。分布域は広いが生息地は少なく、そのいずれの場所も局地的で生息面積は小さい。2020 年に石川県の河北潟で 15 年ぶりに生息が確認された(野村・高橋, 2021)。

県内の分布状況

現在のところ生息の情報は無い。

生態・生息環境

汽水域の最も陸側で、僅かに潮の影響のある場所や淡水のゆるい流水及び止水の軟泥足の表面、植物や転石の上などにすむ。水田でみつかるともある。河口が水門で仕切られ、低酸素になるような水域が生息地になりやすい(増田・内山, 2004)。夏に産卵する。

生存への脅威(減少の要因)

全国的には、汽水域の埋め立てや護岸工事などにより生息地が減少している。富山県においても、開発により生息環境が失われたことから、長らく生息が確認されていない。

保全対策

小型で目立たない種であることから、本種の生息の可能性がある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

低酸素状態の水域に生息する可能性があることから、今後の調査で再発見の可能性はある。吸虫類の中間宿主。日本固有種。

周辺の県での指定状況: 新潟県(2021) 準絶滅危惧 / 石川県(2020) 情報不足 / 福井県(2016) 県域絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献: 10), 22), 31), 39), 46), 47), 63), 64), 67), 76), 81)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹

イグチモノアラガイ (モノアラガイ目・モノアラガイ科)
Radix auricularia auricularia (Linnaeus, 1758)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅+野生絶滅
環境省 2020 カテゴリー: 情報不足

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地(射水市古明神)が富山新港の建設に伴い消滅。富山県では過去 50 年以上、生息が確認されていない。

形態

殻高 20mm。殻は薄く、半透明淡褐色。体層は大きく膨らむ。殻口も大きく、その縁が広がる。軸唇が強くねじれる。

国内の分布状況

北海道。

県内の分布状況

現在のところ生息の情報は無い。

生態・生息環境

池や沼などの止水や流れの穏やかな河川の水草にすむ。

生存への脅威(減少の要因)

圃場整備に伴う用水路の改修。三面コンクリートにすることで、用水路の流れが速くなり、また水草も生えにくい環境になった。農薬汚染も減少の原因の一つ。

保全対策

本種の生息の可能性がある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

肝蛭(かんでつ)の中間宿主。本種は、モノアラガイ *Radix plicatula* と同種とする意見もある。

周辺の県での指定状況: なし

文献

参考文献: 47), 67), 81)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹

オバエボシガイ (イシガイ目・イシガイ科)

Inversidens brandtii (Kobelt, 1879)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅+野生絶滅

環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地(魚津市蛇田)が消滅。富山県では過去 50 年以上、生息が確認されていない。

形態

殻長 30~35mm、最大 50mm。殻は、短卵型でやや厚く、後端が鈍い嘴状。黒い殻皮を被る。殻表は平滑なものや放射状の放射肋のあるもの。漣状の模様があるものもある。殻の内面は、擬主歯、後側歯があり、真珠光沢が強い。

国内の分布状況

愛知県以西の本州と九州北西部に分布。従来、日本海側の県では、見つかっていなかったが、本州の日本海側に注ぐ河川として、中国地方の江川水系と近畿地方の由良川水系で発見された。比較的まとまって生息する場所が局地的に確認されているが、数は少ない。石川県七尾市が、生息地の東限(北限)にあたる(川端, 2004・石川県生活環境部自然環境課, 2020)。

県内の分布状況

現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

小川や用水路の砂礫~砂泥底に生息。2 年(殻長約 3cm)で、性成熟する。繁殖期は、春~夏で、初夏がピーク。孵化した幼生は、オイカワやカワムツなどに寄生して成長し、ある程度成長すると魚から離れて、底生生活に移行する。寄生期間は水温 25 度で約 11 日間。

生存への脅威(減少の要因)

圃場整備に伴う用水路の改修や河川改修。

保全対策

本種の生息の可能性のある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

由良川水系や江川水系での生息が確認されるまでは、魚津市蛇田が日本海側の県で唯一の生息記録であった。周辺の県での指定状況: 石川県(2020) 情報不足 / 岐阜県(2015) 絶滅危惧Ⅰ類

文献

参考文献: 8), 22), 31), 46)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹

カタハガイ (イシガイ目・イシガイ科)

Obovalis omiensis (Heimburg, 1884)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅+野生絶滅

環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県内で唯一生息が確認されていた生息地(高岡市佐野)が消滅。生息が期待できる小川や用水路が減少している。富山県では過去 50 年以上、生息が確認されていない。

形態

殻長約 90mm。殻は薄く、膨らみも弱い。また、黒い殻皮を被る。殻の後背部にやや強い分岐肋がある。殻の内面の後側歯が弱く、真珠光沢は強い。

国内の分布状況

新潟県から熊本県までの 18 府県で生息記録がある。かつて日本海側では、福井県から報告があるにすぎなかったが、近年新潟県や石川県、福井県、京都府で生息が確認されている。いずれの場所も、生息地は狭く、生息密度は低い。

県内の分布状況

現在のところ生息の情報はない。

生態・生息環境

比較的小さな河川やクリーク。河川では、岸部と少し深い中間部に比較的多い。2 年(殻長約 4cm)で、性成熟する。繁殖期は、初春。幼生は一時期、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ等の淡水魚に寄生して成長する。寄生期間は水温 25 度で約 12 日間。

生存への脅威(減少の要因)

圃場整備に伴う用水路の改修や河川改修による砂泥底の消失。幼生が寄生する淡水魚の減少。

保全対策

本種の生息の可能性のある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本州の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。

周辺の県での指定状況: 新潟県(2021) 絶滅危惧Ⅱ類 / 石川県(2020) 絶滅危惧Ⅰ類 / 福井県(2016) 県域絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県(2015) 絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献: 8), 10), 22), 31), 38), 42), 43), 44), 47), 63), 67), 75), 81)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹

マツカサガイ（広域分布種）（イシガイ目・イシガイ科） *Pronodularia cf. japonensis* 1 (Lea, 1859)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

極めて確認例が少ない種。最近新たな生息地が見つかったが、局所的でいずれも護岸化が進行し不安定。

形態

殻長は最大で 100mm。殻は厚く、卵円形。殻の表面には、逆 V 字型の彫刻が顕著。小さい内は黄褐色の殻皮だが、成長とともに黒褐色の殻皮に変わる。殻頂部は、殻皮がなく、貝殻が浸食されている個体が多い。浸食を受けた箇所は緑色がかかる。殻の内側は、真珠光沢が強い。膨らみも弱い。また、黒い殻皮を被る。殻の後背部にやや強い分岐肋がある。

国内の分布状況

九州、四国、中国、近畿、北陸から青森県までの日本海流入河川に分布。

県内の分布状況

射水市足洗潟において以前に死殻の報告が 1 例あるが、近年報告は皆無。2012 年に富山市で確認後（不破ら、2014）、滑川市、射水市、氷見市等で新たな生息地が確認されているが何れも局所的。

生態・生息環境

河川や用水路などの緩やかな流れのある砂泥底に多い。2 年（殻長約 30mm）で、性成熟する。繁殖期は初夏～夏。幼生は、ヨシノボリ類、オイカワ、カワムツ、ドジョウ、ジュズカケハゼなどに寄生する。寄生期間は水温 25 度で約 8 日間。

生存への脅威（減少の要因）

開発や圃場整備による河川改修や水質汚濁。休耕田の増加に伴い用水の泥上げが行われなくなり、生息地の底質の軟泥化。

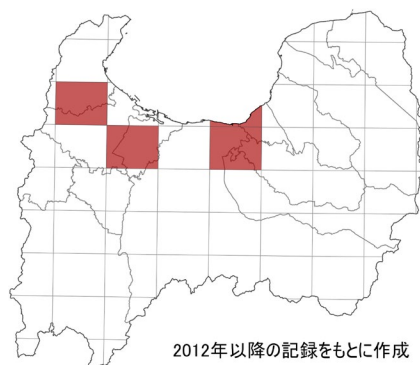
保全対策

生息地を改変する際は、改修時に生存できる環境を残す。年間を通じた安定した水流量の確保、定期的な泥上げを行う。幼生の宿主になるヨシノボリ等の生息環境の維持が必要。近年、タナゴ類の飼育用にマツカサガイが販売されることもあり、安易な放流に繋がらないように普及、宣伝、指導する必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧

（文責：不破 光大）



イシガイ（イシガイ目・イシガイ科） *Nodularia douglasiae* (Gray in Griffith & Pidgeon, 1833)

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では、射水市と氷見市でのみ生息が確認されている。イタセンバラの産卵対象二枚貝としても重要。

形態

殻長は 90mm。殻はやや細長い長卵形。殻はやや厚い。殻皮は黒褐色で、殻頂部周辺に連状の彫刻がある。殻頂部は、貝殻が浸食され、下層が現われている。殻の内面は、白っぽく、真珠光沢が強い。

国内の分布状況

九州、中国、近畿（奈良県、大阪府、京都府、兵庫県）、北陸に分布。

県内の分布状況

射水市と氷見市にのみ分布。

生態・生息環境

河川の流れのある砂礫底に多い。湖、池、沼にも生息する。2 年（殻長約 30mm）で、性成熟する。春～夏が産卵期で、幼生はヨシノボリ類、オイカワ、カワムツ、カマツカ、モツゴ、スナヤツメに寄生する。寄生期間は水温 25 度で約 9 日間。

生存への脅威（減少の要因）

開発や圃場整備による河川改修や水質汚濁、農業の流入。

保全対策

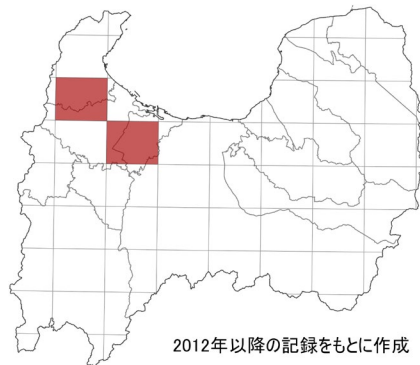
改修時に生存できる砂礫底等の環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、本種の減少は、タナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧 / 岐阜県（2015）絶滅危惧Ⅱ類

（文責：不破 光大）



ヨコハマシジラガイ (イシガイ目・イシガイ科)

Inversunio jokohamensis (Ihering, 1893)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅰ類

環境省 2020 カテゴリー: 準絶滅危惧

選定理由

氷見市、南砺市、射水市、入善町など生息地が局所的。いずれの生息地においても護岸化が進むなど不安定な環境。

形態

殻長は 90mm。殻は長方形でやや厚い。殻皮は黒褐色で、殻頂部周辺に漣状の彫刻がある。殻頂部は、貝殻が浸食され、下層が現われている。殻の内面は、白っぽく、真珠光沢が強い。マツカサガイと混同されてきたが、マツカサガイよりも V 字の彫刻が弱く、顆粒状になることで区別できる。

国内の分布状況

東海、北陸、甲信越、関東、東北太平洋側、北海道に分布。

県内の分布状況

射水市と氷見市、南砺市、入善町に分布。

生態・生息環境

ダム湖やため池から流下する細流に見られる。緩やかな流れのある環境を好み、底質は底質が砂泥底で水質の良い場所にすむ。2 年(殻長約 30mm)で、性成熟する。繁殖期は、秋から夏までほぼ 1 年中続くが、初夏がメイン。幼生はヨシノボリ類、カワムツ、ウグイ、ヌマチチブ、ジュズカケハゼなどに寄生して成長する。寄生期間は水温 25 度で約 9 日間。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備による河川改修。特に砂泥底の喪失や水質汚濁。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。生息地を改変する際は、本種の移植が望ましい。

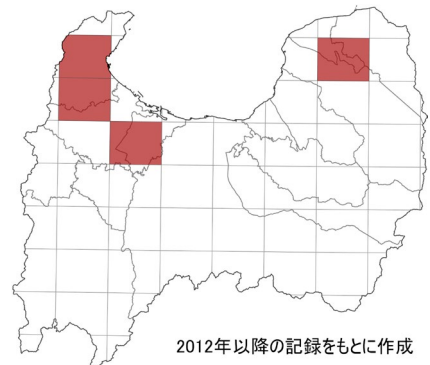
特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、減少すればタナゴ類の生息に大きな影響を与えると予想される。

周辺の県での指定状況: 新潟県(2021) 準絶滅危惧 / 石川県(2020) 絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県(2016) 準絶滅危惧
岐阜県(2015) 情報不足



撮影: 不破 光大



2012年以降の記録をもとに作成

(文責: 不破 光大)

マルタニシ (タニシ目・タニシ科)

Cipangopaludina cf. laeta (von Martens, 1860)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては富山県内の水田や用水でふつうに見られたが激減。生息環境は農地転用、乾田化等で悪化の傾向にある。

形態

殻高 60mm。殻塔は高く、円錐形。黄色がかった黒い殻皮を被る。貝殻の各層の丸みが強く、よく膨らむので、縫合が深くなる。卵胎生。オスの右触角が曲がっていることで、雌雄の見分けができる。

国内の分布状況

九州、四国、本州、北海道南部に分布。

県内の分布状況

平野部から丘陵部の水田などで確認されている。

生態・生息環境

水田や湿地、その周りの用水、池など流れがゆるい泥底に生息。繁殖期は初夏～夏。卵胎生で 20～30 個の仔貝を持つ。寿命は 3 年。泥底や植物につく付着藻類を食べる。冬は泥に潜って越冬する。富山県の場合、積雪により湿った環境が冬も保たれ、マルタニシにとっては、越冬しやすい環境である。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備による河川改修、農地転用、乾田化、不適切な農薬使用。

保全対策

河川改修や用水改修の時には、生存できる環境を残す。

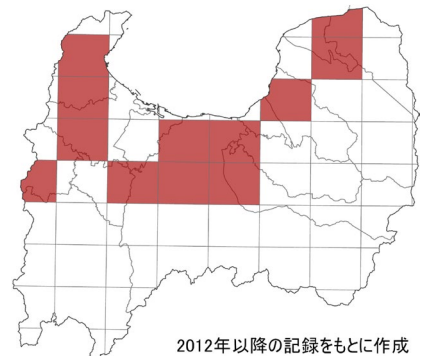
特記事項

タニシ類は、以前は食用にされていたが、生息数の減少に伴い、食べられることがなくなった。

周辺の県での指定状況: 新潟県(2021) 準絶滅危惧 / 石川県(2020) 準絶滅危惧 / 福井県(2016) 県域準絶滅危惧 / 岐阜県(2015) 準絶滅危惧



撮影: 不破 光大



2012年以降の記録をもとに作成

(文責: 不破 光大)

モノアラガイ (モノアラガイ目・モノアラガイ科)

Radix plicatula Jay, 1857

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

富山県内の平野部の流れの緩やかな河川や用水に生息していたが、急速に生息数が減少している。

形態

殻高 20mm 前後。殻は卵形で薄い。殻口は広く 7~8 割ほどを占める。軸唇はねじれる。体色は、黄土色で黒い斑紋があり、貝殻を通してその斑紋が見える。触角は平たく三角形。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。しかし、近年、全国的に見られなくなった。

県内の分布状況

個体数は少ないながら県内の平野部、都市部とも生息地が存在する。

生態・生息環境

池沼、水田などの止水や穏やかな用水の水草の上に生息。夏に 20 個余りの卵が入った寒天質の卵嚢(らんのう)を水草や石などに産み付ける。孵化後、2 か月で成熟する。水面に足を貼り付けて逆さまになって移動することができる。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、農地転用、乾田化、不適切な農薬の使用。

保全対策

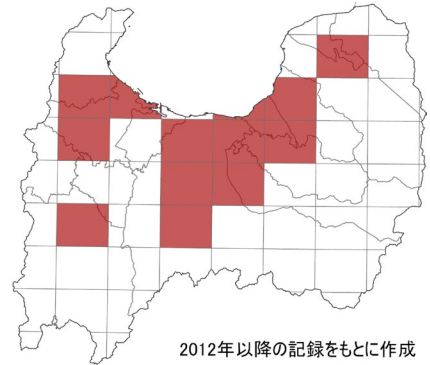
河川の改修時に流れの緩やかな淀みのある環境を残す。特に水生植物が生育できる環境を残す必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県(2021) 準絶滅危惧 / 石川県(2020) 情報不足 / 福井県(2016) 県域準絶滅危惧



撮影：不破 光大



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：不破 光大)

キタノタガイ (新称) (イシガイ目・イシガイ科)

Beringiana gosannensis Sano, Hattori & Kondo in Lopes-Lima et al. 2020

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内の平野部や丘陵地の改修が行われていない用水やため池のみで生息が確認されている。なお、カタドブガイ *Buldotskia iwakawai* と混同されており、正確な生息状況の確認が必要。

形態

殻長は 100mm を超えない。殻はやや細長い長卵形で、膨らみは弱い。殻皮は黒褐色。殻表には細かい成長線のみで、ほぼ平滑。殻の内面は真珠光沢がある。歯がないことが大きな特徴。

国内の分布状況

島根県から青森県までの日本海流入河川に分布。

県内の分布状況

平野部や丘陵部の用水やため池の砂泥~軟泥底で見られる。RDB とやま 2012 ではカタドブガイが混同されていたが、DNA 調査により分けた。氷見市、富山市、黒部市に分布。今後カタドブガイとあわせた生息状況の精査が必要。

生態・生息環境

河川や湖沼の砂泥底や泥底に埋もれて生息。殻長 50mm で成熟し、繁殖期は 1 年中。成長すると、幼生は魚体を離れ、底生生活に移行する。寄生期間は水温 25 度で約 10 日間。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備、埋め立てによる生息場所の改変、水質の悪化、底質の変化、ため池の干し上げ。

保全対策

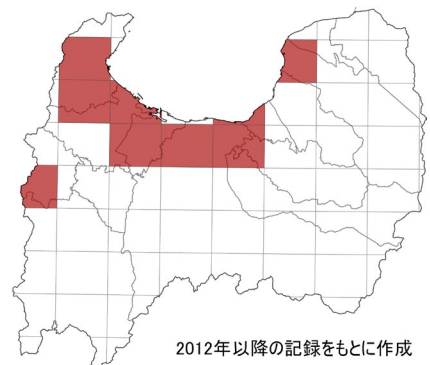
改修時に生存できる環境を残す。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。

特記事項

タナゴ類の産卵母貝のため、減少すればタナゴ類の生息に大きな影響を与える。周辺の県での指定状況：該当なし



撮影：不破 光大



2012年以降の記録をもとに作成

(文責：不破 光大)

ヌマガイ (イシガイ目・イシガイ科)
Sinanodonta lauta (Martens, 1877)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省 2020 カテゴリー: 該当なし

選定理由

県内の生息地が限定的で記録が少ない。

形態

殻長は 150mm を超えるものもある。殻は卵円形でやや膨らみがある。殻皮は黒褐色。殻表には細かい成長線のみで、ほぼ平滑。殻の内面は真珠光沢がある。歯がないことが大きな特徴。

国内の分布状況

北海道、本州、四国、九州に広く分布。

県内の分布状況

氷見市、小矢部市、高岡市、射水市、富山市の河川の支流やワンド、ため池など止水域の閉鎖的環境を好む。

生態・生息環境

河川のワンドや溜り、湖沼の砂泥底に埋もれて生息する。繁殖期は春から夏。幼生はヨシノボリ類、オイカワ、カマツカに寄生し成長すると、魚体を離れ、底生生活に移行する。タナゴ類の産卵母貝のため、減少すればタナゴ類の生息に大きな影響を与える。

生存への脅威（減少の要因）

開発、圃場整備、埋め立てによる生息地の減少。

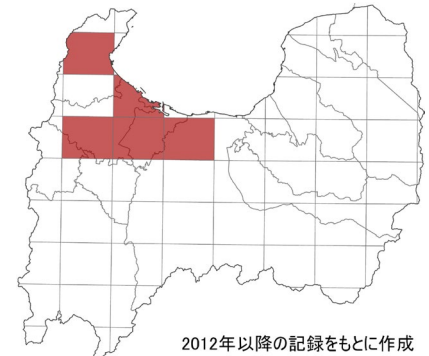
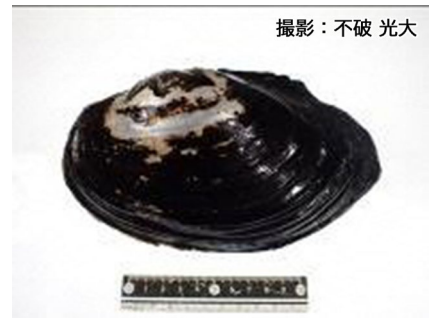
保全対策

改修時に生存できる環境を残す。幼生が寄生する魚類が共に棲める環境が必要。

特記事項

周辺の県での指定状況: 該当なし

撮影: 不破 光大



2012年以降の記録をもとに作成

(文責: 不破 光大)

イシマキガイ (アマオブネ目・アマオブネ科)
Clithon retropictum (Martens, 1879)

富山県 2025 カテゴリー: 準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー: 該当なし

選定理由

県東部は急流河川が多く汽水域が少ないため、幼貝の着底に適さない。県西部は勾配の緩やかな地形で河口域に汽水域が発達した場所もあるが、泥地を好まず岩表に多いため生息環境が整った場所が限定されている。

形態

殻高約 25mm の巻貝。殻はほぼ球形で、殻頂部が侵食されていることが多い。殻の表面は、細かい三角斑が密に並ぶ。

国内の分布状況

南日本の河川の河口に広く分布。日本海側では新潟県（佐渡島を含む）の三面川が北限（新潟県, 2001）。

県内の分布状況

生貝が確認されているのは魚津市角川のみであったが（高山ら, 2008）、不破ら（2020）の富山市での発見から氷見市、滑川市、黒部市など県西部から県東部の比較的緩やかな河口域から下流域で見られ、分布状況が明らかになってきた。

生態・生息環境

河川の中流から河口域の純淡水域と汽水域にかけて生息する。岩盤・転石・コンクリート護岸に着き、石の表面に生える付着藻類を餌にする。春から夏にかけて交尾し、メスは岩石や他個体の殻表に直径 1-2mm・扁平なドーム状・黄白色の卵嚢（らん）のう）を産みつける。卵嚢から孵化した幼生は海に流れ下り、浮遊生活に入る。充分成長した幼生は河川の汽水域に遡上、着底後変態して幼貝となる。

生存への脅威（減少の要因）

県内の生息域は明らかとなってきたが生息域が限定的であり、開発が進めば減少する可能性がある。

保全対策

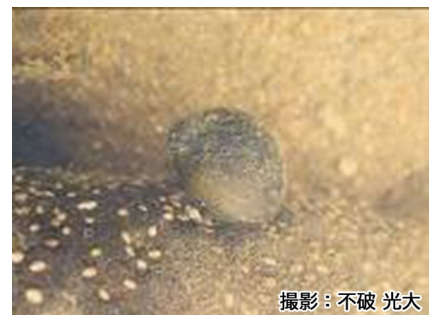
改修時に生存できる汽水環境を残す。

特記事項

周辺の県での指定状況: 新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域準絶滅危惧

(文責: 不破 光大)

撮影: 不破 光大



オオタニシ (タニシ目・タニシ科)
Heterogen japonica (Martens, 1860)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の主な生息域は用水路やため池であり、改修の影響により減少している。

形態

殻高約 70mm。殻の螺塔が高く、円錐形。殻の膨らみは弱く、縫合が浅い。殻皮の色は茶褐色。殻頂部の殻皮が失われているものが多く、それらは貝殻が侵されている。殻は平滑で光沢があり、螺肋状の弱い角がある。卵胎生。オスは右触覚が強く曲がり、メスと区別ができる。

国内の分布状況

北海道南部から九州、沖縄の池や沼、川、水田に生息。

県内の分布状況

氷見市、射水市から黒部市の平野部の池や用水、水田に分布。止水域の閉鎖的な環境を好む。黒部市においては、激減した例もあるほか、朝日町では人工的な池で確認されており人為的移入の可能性ある。

生態・生息環境

池や沼、用水、水田など泥底に生息。卵胎生で、春、水温が上がると交尾をする。仔貝は、1 回に数匹ずつ産み出される。

生存への脅威（減少の要因）

開発や圃場整備による改修、水田の農地転用、乾田化、用水の乾し上げ、不適切な農薬使用。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 福井県（2016）要注目 / 長野県（2015）準絶滅危惧

（文責：不破 光大）



撮影：不破 光大

フクイマメシジミ (ドブシジミ目・ドブシジミ科)
Pisidium kawamurai hukuiense Mori, 1938

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では、これまで標高の高い 4 か所でマメシジミ類の生息が記録されていた。魚津市僧ヶ岳中腹の池尻の池のマメシジミは、形態からフクイマメシジミとすることが妥当と考えられることから、本地域の個体と区別した。以前の現地調査では、本種が高密度で生息していた。また、池尻の池は、富山県の実験地保全地域にあり、保護されてきた。しかしながら、近年の土砂災害で、池尻の池に行く登山道が崩落しており、生息状況は不明。氷河時代のレリック（遺存種）として、地理的な分布を考える上で重要。

形態

殻長約 6mm の二枚貝。殻は薄く卵型で膨らみも強い。殻の色は、灰褐色～灰黄色。殻表の線条は明瞭で規則的に刻まれる。

国内の分布状況

北陸地方の標高が高い池や沼、湿地。福井県や大阪府で生息が確認されているが、減少傾向にある。

県内の分布状況

魚津市別又谷池尻の池。今回は現地確認できなかった。

生態・生息環境

谷川の湧水の中や湿地の落葉の下などに生息。泥底に潜る。雌雄同体で、卵胎生。生息環境が良いと高密度に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

湧水の枯渇や土砂の流入などにより生息地の環境変化や池、沼、湿地などの消滅。生息地改変。生息地の水の酸性化。

保全対策

生息環境の変化に注意する必要がある。何らかの改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

微少な貝で底泥に潜って生活しているため発見しにくい。マメシジミ類(*Pisidium* 属)は我が国で 20 種程度の種類が報告されているが、形態的分類が極めて困難な種群とされる。周辺の県での指定状況：福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：10), 21), 47), 78)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

マメシジミ類 (ドブシジミ目・ドブシジミ科)

Pisidium spp.

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

マメシジミ類は、富山県内の標高の高い 4 か所で生息が記録されていた。生息地の一つ、魚津市僧ヶ岳中腹の池尻の池は、形態の特徴から今回はフクイマメシジミ *Pisidium kawamurai hukuense* Mori, 1938 とした。マメシジミ類は 20 種余りの種や亜種が記載されているが、明らかに分類できるものが少なく、分類が混迷している。しかしながらのこり、どの生息地も局所で、生息地の現状についての情報が少ないことから、情報不足とした。残り 3 か所の個体については、氷河時代のレリック（遺存種）として、地理的な分布を考える上で重要。

形態

殻長約 3～5mm の二枚貝。殻は薄く卵型で膨らみも強い。殻の色は、灰褐色。殻表には微細な成長脈がある。

国内の分布状況

北海道から九州の標高が高い場所にある池や沼、湿地。

県内の分布状況

南砺市上百瀬東保谷や福光大獅子山、立山町千寿ヶ原などで記録があるが、現地確認できなかった。

生態・生息環境

谷川の湧水や池、沼の中や湿地の落葉の下などに生息。泥底に潜る。雌雄同体、卵胎生。

生存への脅威（減少の要因）

湧水の枯渇や埋め立てなどの生息地改変。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

微少な貝で底泥に潜って生活しているため発見しにくい。マメシジミ類(*Pisidium* 属)は我が国で 20 種程度の種類が報告されているが、形態的分類が極めて困難な種群とされる。

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：(47), (78)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ドブシジミ (ドブシジミ目・ドブシジミ科)

Musculium japonicum (Westerlund, 1883)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

以前は市街地の用水や池で多数見られたが、近年急速に生息地が消滅。現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻長約 8mm の二枚貝。殻は淡い黄色で薄く卵型で膨らみも強い。殻頂部はほぼ背縁中央部に位置する。殻皮に覆われている。殻表は、きめ細かい成長脈があり、光沢がある。胎殻が盛り上がっている。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

前回同様、黒部市立野で見つかった。その他の地域でも見つかったはいるが、生息密度が少ない

生態・生息環境

池や沼、流れの緩い用水等の止水の砂や泥に埋もれて生活。水質汚濁に対しても強い。雌雄同体で卵胎生。1～2mm の幼貝を 10～20 個程度、鰓で育て、産出する。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修工事に伴う生息地の消滅。乾燥化。富栄養化に伴う水質悪化。

保全対策

改修にあたっては、本種が生育できる流れが緩やかな泥や砂泥底の水路や用水などの環境を残す。

特記事項

微少な貝で底泥に潜って生活しているため発見しにくい。ドブシジミの仲間は、他の動物に付着して、分布を広げる事例が報告されている。

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：(47), (67), (72), (78), (81)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ヒラマキミズマイマイ (モノアラガイ目・ヒラマキガイ科)
Gyraulus chinensis spirillus (Gould)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足
環境省 2020 カテゴリー: 情報不足

選定理由

富山県内で生息が確認されていた用水や池が、改修により生息が確認できる場所が激減した。現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約 7mm の巻貝。殻は円盤状で薄く、半透明。殻の周囲に弱い角がある。広い臍穴を持つ。長い触角の根元に眼がある。雌雄同体。軟体部は、貝殻を通して赤く見える。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

流れのゆるい草や池の水草の葉や小石に付着している。

生存への脅威（減少の要因）

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に水草が生育可能な環境を残す。

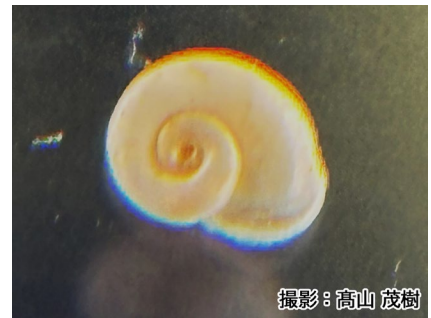
特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）情報不足 / 福井県（2016）その他要注目 / 長野県（2015）その他留意種

文献

参考文献：10), 22), 31), 47), 61), 67), 78), 81)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ヒラマキガイモドキ (モノアラガイ目・ヒラマキガイ科)
Polypylis hemishaerula (Benson)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足
環境省 2020 カテゴリー: 準絶滅危惧

選定理由

富山県内で生息が確認されていた用水や池が、改修により生息が確認できる場所が激減した。現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約 9mm の巻貝。殻は円盤状で薄く、半透明。ヒラマキミズマイマイに似るが、螺層が深く重なることや体層に目立つ 3～4 本の白い放射状の襞ができることで区別ができる。

国内の分布状況

本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

流れのゆるい草や池の水草の葉や小石に付着している。

生存への脅威（減少の要因）

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

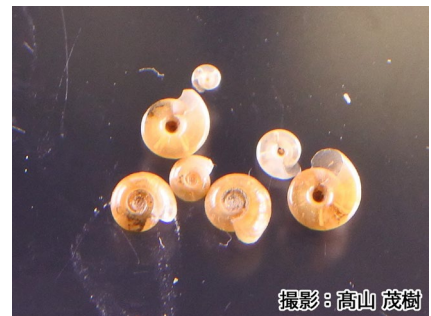
改修時に水草が生育可能な環境を残す。

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）情報不足

文献

参考文献：10), 22), 31), 47), 61), 67), 78), 81)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

カワコザラガイ (モノアラガイ目・ヒラマキガイ科)

Ferrissia nipponica (Kuroda in S.Uchida, 1949)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足

環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧 I A 類

選定理由

以前は市街地の用水や池で見られたが、近年急速に生息地が消滅。また、カワコザラ種群の再検討の結果、従来カワコザラガイと考えられていた種は、おおむねスジイリカワコザラ *Ferrissia californica* (Rowell, 1863) とされ、在来のカワコザラガイは別に存在するとされた(福田・齋藤, 2020)。現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。

形態

殻幅約 5mm の巻貝。殻は低い笠形、楕円形で薄い。

国内の分布状況

北海道、本州～九州。沖縄。

県内の分布状況

報告なし。

生態・生息環境

小川や池、沼等の止水や半止水のスイレンやヒシ等の水生植物の葉の裏に付着していることが多い。他に石や枯れ葉にも付着している。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備による河川改修、水質汚濁、用水の乾し上げ、水田の乾田化、農薬散布。

保全対策

改修時に水草が生育可能な環境を残す。

特記事項

周辺の県での指定状況: 石川県(2020) 絶滅危惧 I 類 / 福井県(2016) 県域絶滅危惧 II 類 / 岐阜県(2015) 絶滅危惧 II 類

文献

参考文献: 8), 9), 10), 22), 31), 47), 64), 67), 72), 78), 81)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹

カタドブガイ (新称) (イシガイ目・イシガイ科)

Buldowskia iwakawai (Suzuki, 1939)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足

環境省 2020 カテゴリー: 該当なし

選定理由

富山県では、キタノタガイと混同されており、正確な生息状況の確認が必要。いずれも確認例が少なく生息環境の悪化も懸念される。

形態

殻長は 100mm。殻は薄く楕円形。殻皮は黒褐色で、殻頂が背縁中央に位置する。

国内の分布状況

本州の日本海側、北海道。

県内の分布状況

RDB とやま 2012 ではキタノタガイと混同されていたが、DNA 調査により、新たにカタドブガイと分類された。富山市、滑川市、上市町に分布。今後、キタノタガイとあわせた生息状況の精査が必要。

生態・生息環境

流れのほとんどない用水路などの泥底で見られる。殻長 50mm で成熟する。秋～春が産卵期で、幼生はジュズカケハゼ、ヌマチチブ、ウグイなどに寄生する。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備、埋め立てによる生息場所の改変、水質の悪化、底質の変化、ため池の干し上げ。

保全対策

県内分布の把握。貝だけでなく繁殖に係る魚類が棲める水生植物が残る環境が必要。

周辺の県での指定状況: 該当なし

(文責: 不破 光大)



撮影: 不破 光大

選定理由

かつては、富山県内の平野部や丘陵の小河川や用水に広く生息し、食用に消費していた地域もあった。しかしながら、その後の河川改修圃場整備、水質汚濁で激減した。一時期、回復傾向が見られたが、近年、外来種のタイワンシジミ *C. fluminea* (Müller, 1774) が富山県内各地で確認されるとともに、各地でマシジミとタイワンシジミの交雑が起こり、マシジミが急速に減少していると推測されている。一方で、マシジミとタイワンシジミについて、殻の色彩や形態などで容易に区別ができる系統と区別ができないものがあることや分子遺伝学においてもマシジミとタイワンシジミの区別が明確にできないか違いがあってもごくわずかであることがわかった(横山, 2019)。現在、マシジミについて、分類学的な位置が明確でないことから、富山県のカテゴリーを絶滅危惧Ⅱ類から情報不足に変更した。



形態

殻長は 35mm。殻はほぼ三角形で厚い。殻皮は黄色がかった黒色で、等間隔の和肋がある。幼貝は黄色が強いが、老成すると黒くなり、鈍い光沢になる。殻頂部は殻皮がはがれ、灰白色の殻が露出する。殻の内面は濃い紫色。

国内の分布状況

北海道北部の特に寒い地方を除く北海道から九州に広く分布。朝鮮半島にも分布する。

県内の分布状況

富山県内の平野部と丘陵の用水に広く分布していた(土井, 1993)。しかしながら、近年はタイワンシジミが富山県に侵入、定着したことで、マシジミが激減している。

生態・生息環境

河川の中流域や用水の礫や砂底に生息。泥底は好まない。殻の縁が見えるぐらいに浅く底質に潜っている。あまり移動しない。初夏から夏が繁殖期。体細胞は 3 倍体で、雄性発生をする。雌雄同体で自家受精も可能。基本、卵胎生で体内受精であるが、卵を体外に放出し、環境水の中で卵発生が進む場合もある。体内受精の場合は、幼生は貝殻が約 0.2mm になるまで、保育される。平均殻長が約 10mm になると生殖腺が成熟しはじめ、孵化後 1 年で 16mm 前後になった記録がある。飼育下の観察で、殻長 33mm、年齢 8 歳の記録がある(平野・藤原, 1987)。

生存への脅威(減少の要因)

開発や圃場整備による生息場所の改変、水質の悪化、河川改修に伴う底質環境の変化、農薬の使用。マシジミは雄性発生をするので、繁殖力の強いタイワンシジミとの交雑により、マシジミの生息地が、タイワンシジミの生息地に置き換わることで、マシジミが減少している。

保全対策

改修時には、マシジミが生存できる環境を部分的に残すなどの対策が必要。タイワンシジミ対策としては、タイワンシジミの意図的移動や偶発的な移動を避ける対応をする必要がある。

特記事項

富山県においては、かつては家庭の惣菜として利用していた。

周辺の県での指定状況：新潟県(2021) 絶滅危惧Ⅰ類 / 福井県(2016) 県域絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県(2015) 準絶滅危惧

文献

参考文献：7), 8), 10), 20), 25), 31), 47), 59), 63), 67), 72), 78), 81), 83)

(文責：高山 茂樹)

ヤマトシジミ (マルスダレガイ目・シジミ科)
Corbicula japonica Prime, 1864

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

かつては、放生津潟や十二町潟がヤマトシジミの産地であったが、放生津潟は富山新港として海水化し、また、十二町潟も淡水化したことで絶滅した。前回の調査では、神通川河口で大型の個体を確認できたが、今回は不明。打ち上げ貝にヤマトシジミは見つかるが、県外から多量に食用に販売されていることから、その貝殻だけでヤマトシジミが生息しているかどうかは判断できない。そこで、現状を把握できるだけの情報がなかったことから、情報不足とした。



撮影：高山 茂樹

形態

殻長は 30mm。殻はほぼ三角形で厚い。殻皮は小さい内は茶褐色だが、成長とともに光沢のある黒色に変わる。内面は白色。卵生。

国内の分布状況

北海道から九州に広く分布。

県内の分布状況

かつては放生津潟や十二町潟などに多量に生息していたが、放生津潟は富山新港になり、海水化したので絶滅したと思われる。十二町潟も淡水化したので、同様に絶滅した。以前は、神通川河口で確認されたが、今回は生息が確認できなかった。

生態・生息環境

河川の河口など淡水と海水が入り混じる汽水域の砂礫底。

生存への脅威（減少の要因）

河川改修に伴う底質環境の変化。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。

特記事項

重要な食用種。日本各地より食用として、県内の店に出回っているので、海岸には貝殻が打ち上がっていることもあるが、地元のものかどうか分からない。

周辺の県での指定状況：石川県（2020）情報不足 / 福井県（2016）県域準絶滅危惧

文献

参考文献：10), 22), 47), 67), 81)

（文責：高山 茂樹）

ヤマメタニシ (エゾタマキビ目・イツマデガイ科)
Blanfordia integra Pilsbry, 1924

富山県 2025 カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

ヤマメタニシは、日本海沿岸に特徴的に生息する陸貝として知られている(湊, 1980・1987)。富山県内では、朝日町宮崎の鹿島樹叢でのみ、生息が記録されている。近年の調査では、少ないながらも生息が確認できている(金安, 2018)。かつては、鹿島樹叢の鹿嶋神社の境内の低木で比較的簡単に見つかった。現在は、生息数が著しく減少している。

形態

殻高 4.5mm で小さい。形は卵型の円錐形。殻は灰褐色。殻口は黒く縁取られる。

国内の分布状況

日本固有種。秋田県から島根県にかけての日本海側の山地に不連続に分布をする。太平洋側では、静岡県天城山や埼玉県三峰山、岐阜県美濃地方からも生息が確認されている。岐阜県では、個体数が大幅に減少している。

県内の分布状況

県内では、朝日町宮崎鹿島樹叢でのみ生息している。夏には低い灌木の葉の裏で見つかることが多い。

生態・生息環境

低木の葉の裏や幹、礫の下、落葉の下に生息。冬期間は石の下にいる。

生存への脅威(減少の要因)

以前に比較して、林床の乾燥化が一段と進んでいる。生息地が狭いので、環境変化の影響を受けやすい。

保全対策

鹿島樹叢では、本種の生息状況や生息環境を定期的な調査を行うことで、生息環境の悪化の要因を把握し、保全に対策を行う必要がある。また、小型で目立たない種であり、県内の分布が把握されていないことから、本種の生息の可能性のある場所を開発する場合は、注意深く、対応をする必要がある。

特記事項

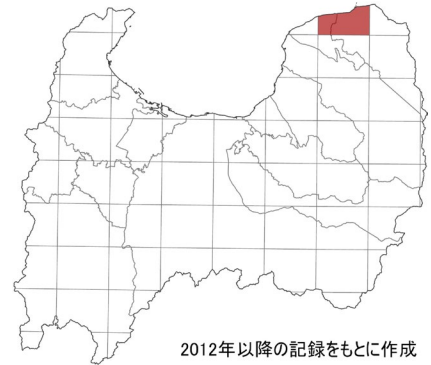
周辺の県での指定状況：新潟県(2021)絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県(2016)県絶滅危惧Ⅰ類 / 岐阜県(2015)絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：5), 8), 10), 31), 27), 36), 37), 51), 53), 63), 67), 80)



撮影：高山 茂樹



(文責：高山 茂樹)

ナガオカモノアラガイ (マイマイ目・オカモノアラガイ科)

Xyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅰ類
環境省 2020 カテゴリー: 準絶滅危惧

選定理由

以前は、市街地を含む富山県内の平野部の水田周辺の土手や水路脇の葦原や湿地の草の葉の上に生息していたと考えられるが、記録は多くない。近年、水田周辺の用水路の改修により、用水路の土手に草が生える場所が失われつつある。10年前に生息を確認していた場所も、今回は見つけることができなかった。用水の改修や開発行為により、生息できる環境が失われ、急速に生息地が消滅している。

形態

殻高約 12mm、殻径約 7mm で細長く楕円形の貝。殻は極めて薄く脆い。また、螺塔が小さく、貝殻のほとんどの部分を体層が占め、殻口も大きい。殻色は半透明で淡黄褐色。蓋はない。雌雄同体。大小 2 対の触覚があり、大触角の先端に眼がある。淡黄白色の軟体部が大きく、殻に収まりきらない。

国内の分布状況

関東から九州に分布。韓国での分布が知られている。

県内の分布状況

これまで生息記録がある富山市下新町や前回の調査で生息が確認できた黒部市立野では、今回の調査においては生息が確認できなかった。しかしながら、新たに上市町や富山市水橋、氷見市十二町湯等で生息が確認できた。

生態・生息環境

湖沼や池、小川の周りの草の葉の上や土手に生息。早瀬 (2008) で、静岡県の本種の産卵時期は春と夏に確認されている。卵径約 0.8mm の球形でゼリー状、産卵後約 2 週間で孵化する。富山県の状況は不明。

生存への脅威 (減少の要因)

開発や圃場整備による河川改修により、護岸改修が行われることで、生息環境が失われ、各地で急速に減少している。ほかに水質汚濁、用水の乾し上げも影響する。

保全対策

改修の際は用水をすべてコンクリート化せず、用水周辺の草や土手がある湿地環境を残す必要がある。このような場所が秋から冬の越冬場所になるので、湿地環境がなくなると越冬場所がなくなり、死滅する。

特記事項

周辺の県での指定状況: 新潟県 (2021) 準絶滅危惧 / 石川県 (2020) 絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県 (2016) 県域絶滅危惧Ⅰ類 / 長野県 (2015) 絶滅危惧Ⅰ類

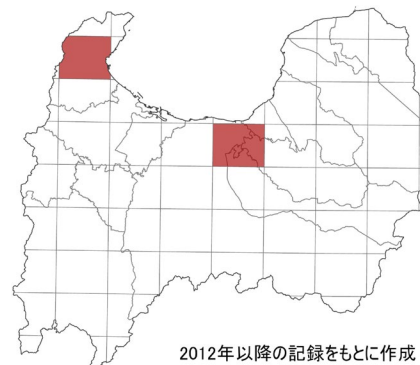
文献

参考文献: 5), 10), 19), 22), 30), 31), 61), 63), 64)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹



2012年以降の記録をもとに作成

ヤマタニシ (ヤマタニシ目・ヤマタニシ科)

Cyclophorus herklotsi Martens, 1861

富山県 2025 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省 2020 カテゴリー: 該当なし

選定理由

丘陵地から山間部にかけてかつては広く分布していたが、減少傾向にある。

形態

殻高約 20mm、殻径約 22mm の巻貝。殻は丸く、殻色は茶褐色から暗褐色。堅い皮質の蓋がある。

国内の分布状況

栃木県・茨城県以南の本州・四国・九州。

県内の分布状況

これまで、富山市大山町檜峠付近。旧八尾地域の桐谷や猪谷、氷見市小境、中田、栗原、阿尾等でこれまで確認されてきた。魚津市住吉と小川寺は、生息が確認できなかった。

生態・生息環境

丘陵地沿いの河川の灌木や山地の落葉や礫の下から見つかる。

生存への脅威 (減少の要因)

里山の開発や森林伐採による生息地の消滅。

保全対策

個体数が少ないので、生息地は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況: 新潟県 (2021) 絶滅危惧Ⅰ類 / 石川県 (2020) 準絶滅危惧 / 長野県 (2015) 準絶滅危惧

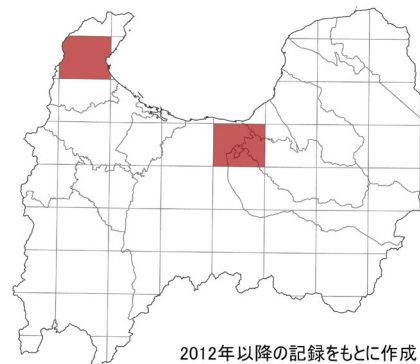
文献

参考文献: 5), 25), 22), 37), 63), 67), 78)

(文責: 高山 茂樹)



撮影: 高山 茂樹



2012年以降の記録をもとに作成

キヌハダギセル (マイマイ目・キセルガイ科)
Mundiphaedusa kuninoae discrepans (Kuroda and Habe in Azuma, 1982)

富山県 2025 カテゴリ: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省 2020 カテゴリ: 該当なし

選定理由

本種の生息地として古くからよく知られる朝日町宮崎鹿島樹叢では、乾燥化に伴う陸産貝類相の減少が指摘されている。

形態

殻は殻高約 26~29 mm、やや細長い紡錘形で、殻表に絹糸状の脈がある。殻色は黄緑~黄褐色で漆様の光沢がある。殻口は卵状の洋梨形である。軟体は乳白色で、触覚は漆黒色を呈する。

国内の分布状況

富山県東部、新潟県、長野県、群馬県、山梨県、埼玉県などに分布する。富山県は、本種の分布西限に位置する。

県内の分布状況

朝日町宮崎鹿島樹叢と黒部市鐘釣の二箇所で、これまで生息が確認されている。

生態・生息環境

主に落葉層中に生息する。

生存への脅威(減少の要因)

キセルガイ類は局所的に生息していることが多く、少しの環境変化が絶滅につながる。

保全対策

個体数が少ないことから、生息が確認できた場所は、保全すべきである。

特記事項

キヌハダギセルは、中部地方から東南北部にかけて分布するクニノギセル *Megalophaedusa kuninoae* (Kuroda, 1936) の 3 亜種のうちの一つに位置付けられる。

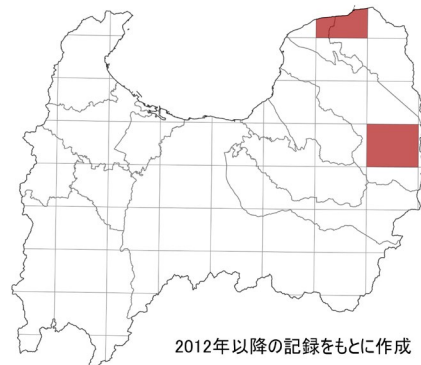
周辺の県での指定状況: 新潟県 (2021) 準絶滅危惧 (クニノギセルとして) / 長野県 (2015) 準絶滅危惧 (クニノギセルとして)

文献

参考文献: 54), 56), 57), 65), 67), 70), 74)



撮影: 柏木 健司



2012年以降の記録をもとに作成

(文責: 柏木 健司)

オウミケマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Aegista omiensis (Pilsbry, 1902)

富山県 2025 カテゴリ: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省 2020 カテゴリ: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県東部の氷見市南部の丘陵地で、2023 年 11 月に生息を確認した。県内では、20 世紀に数例の記録がある一方で、21 世紀に入ってからはこの一例に留まる。環境省と隣接県のカテゴリーを参考に、県カテゴリーを設定した。

形態

殻は小形の低円錐形で、明茶色の殻皮で全体が覆われる。螺塔は低く縫合は浅い。臍孔(さいこう)は開く。殻皮毛(鱗片)は、螺脈に沿って 4 ないし 5 列で配列し、その形状は縦長の三角形で、殻皮と同じ明茶色を呈する。氷見産標本の殻は、殻径約 5~6mm、殻高約 3mm で、体層の周縁が僅かに角張る亜成殻である。

国内の分布状況

滋賀県北部、福井県、石川県、富山県、新潟県に分布する。

県内の分布状況

南砺市利賀村高草嶺、高岡市西田、二上山(大師ヶ岳)、立山町岩峠寺で、20 世紀に記録された。最近、氷見市南部で生息が新たに確認された。

生態・生息環境

林床のやや湿潤状態にある広葉樹の腐葉土間に生息する。

生存への脅威(減少の要因)

希産種であり、開発による生息環境の改変は、地域個体群の絶滅につながる。

保全対策

生息が確認された場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況: 石川県 (2020) 絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県 (2016) 県域絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献: 1), 2), 36), 50), 74)



撮影: 柏木 健司・長谷部 秀平

1000 μm



2012年以降の記録をもとに作成

(文責: 長谷部 秀平・柏木 健司)

ヤマキサゴ (アマオブネ目・ヤマキサゴ科)
Waldemaria japonica (A. Adams, 1861)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内に点在する本種の生息地は狭く、個体数も少ない傾向にある。県内個体群には、本種としては小型の形態種が含まれ、加えて隔離分布を示す地域個体群である。

形態

ソロバン玉形の外形を持つ小型種で、殻質は厚く、螺塔は低く、体層には明瞭な成長線が認められる。殻口の外唇は厚く反転する。殻色は、茶色や黄色、橙色など様々である。蓋は石灰質で半月型を呈する。殻のサイズは地域で異なる。黒部市鐘釣産の個体は、殻径約 9mm の殻高約 6~7mm と、本種としては小型である。

国内の分布状況

本州、四国、九州北部に広く分布する。

県内の分布状況

従来知られている南砺市赤祖父山、富山市の旧大山町の山間部、魚津市金山谷と小川寺、黒部市、朝日町宮崎鹿島樹叢のほか、上市町でも確認されている。上市町伊折の生息地では、生息の確認ができておらず、以前に比べ生息数が減っている印象があった。朝日町宮崎鹿島樹叢では、2010 年代の調査で生息が確認されなかった。黒部市鐘釣と出平は、2010 年代に発見された産地で、出平の生息地は 400 m² 未満と狭い。地上性で落ち葉の下や朽木の上で見ついている。

生存への脅威（減少の要因）

分布は不連続的で生息範囲が狭いなど、地域個体群を形成しており、開発による生息地の改変や消失は大きな脅威となりうる。

保全対策

開発の際は、生息できる環境を残す必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：(36), (37), (56), (67), (70), (74), (78), (80)

(文責：柏木 健司)



撮影：柏木 健司

サドヤマトガイ (ヤマタニシ目・ヤマタニシ科)
Japonia sadoensis (Pilsbry and Hirase, 1903)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

魚津市で生息が確認された。本種は、北陸から中部地方にかけて希産で、データの蓄積と並行して生息地の保全が必要である。県カテゴリーは、環境省カテゴリーに準じた。

形態

殻高約 5mm、殻径約 5.4mm で、幅のやや広い円錐形の殻で、明茶色の殻皮で全体が覆われる。縫合は深く明瞭である。殻口は円形で反転しない。蓋は殻口と同じ円形で、螺旋の軌跡を描く多旋型である。臍孔（さいこう）は狭く深い。殻皮毛は、体層上の螺旋沿いに 2~8 列で見られ、細長く先端に尖る三日月状の外形を持ち、殻皮と同じ明茶色を呈する。

国内の分布状況

関東より以西の本州、四国、および九州に分布する。

県内の分布状況

魚津市での確認が唯一である。

生態・生息環境

林床のやや湿潤状態にある腐葉土間に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

希産種であり、開発による生息環境の改変は、地域個体群の絶滅につながる。

保全対策

生息が確認された場所は保全すべきである。

特記事項

種同定に用いられる殻皮毛は、死殻で容易に脱落することが知られている。殻皮毛を伴わない標本は、属までの同定に留めるべきである。

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）絶滅危惧 I 類 / 福井県（2016）要注目

文献

参考文献：(18)



撮影：柏木 健司・長谷部 秀平

(文責：長谷部 秀平・柏木 健司)

ニクイロシブキツボ (エゾタマキビ目・イツマデガイ科)
Fukuia kurodai kurodai (Abbot et Hanter, 1949)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

新たな生息地が確認できた。その生息地の範囲が狭く、生息数も少ない。また、しぶきがかかる環境に生息することから、開発行為による環境変化に弱いと考えられる。富山県内を分布や生息情報が不明のため、準絶滅危惧種とした。今後、調査が進むことで、カテゴリーが変わることも考えられる。

形態

殻高約 7～10mm、殻径約 4～5mm。殻の色は赤茶色で、殻の表面は平滑。殻口は黒く縁どられる。軟体部は黄褐色。触角は短い。

国内の分布状況

日本海側の東北地方から山陰東部。

県内の分布状況

黒部市福平で記録された。

生態・生息環境

山間部の滝などで飛沫がかかるような岩肌や岩礫の水が滴る場所に生える植物の根元やコケの間、落ち葉の下に生息。

生存への脅威（減少の要因）

溪流の砂防工事による環境変化により生息環境の消失。

保全対策

砂防工事を行う際は本種が生育できる環境を保全すること。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅰ類

文献

参考文献：5), 10), 22), 31), 63)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

オオウスイロヘソカドガイ (エゾタマキビ目・カワザンショウガイ科)
Paludinella stricta tanegashimae (Pilsbry, 1924)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

新たに、蛇が島で生息が確認された。生息地では狭く、個体数も少ないことや県内他地域見つかっていないことから準絶滅危惧種とした。約 25 年前の調査では、多数の生息が確認できたが、個体数が激減している。

形態

殻高 7mm。ヘソカドガイ類の中では大型。円錐形卵型で光沢のある茶褐色。ヘソカドガイより殻高が高く、縫合のくびれが弱い。体層が膨らみ弱い。周縁に弱い竜骨状の角がある。硬質堅固。軟体は漆黒褐色、触角が長く基部に眼がある。

国内の分布状況

本州（房総半島より西、粟島より南）から九州（種子島、屋久島）までに分布。

県内の分布状況

蛇が島のみで記録されている。

生態・生息環境

海岸の打ち上げ物や、海岸線の飛沫帯より上部の灌木(かんぼく)の根元の礫間や礫の下などに生息する。

生存への脅威（減少の要因）

海岸の護岸工事による生息地の消滅。

保全対策

海岸の護岸工事を行う際は、事前調査を行い、生息が確認できた際は、生息できる環境を残す必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅰ類

文献

参考文献：10), 22), 63)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

クリイロキセルモドキ (マイマイ目・キセルモドキ科)
Mirus andersonianus (Möllendorff, 1885)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内でこれまで確認されている生息地は数ヶ所に留まり、どの生息地でも個体密度は低く保全を要する。

形態

殻高約 21～28mm の細長い円錐形の陸貝である。鐘釣産の本種は殻高約 25～28mm と、本種としては大型の殻サイズを持つ。外形はキセルガイに似ているが、本種は左巻きのキセルガイに対して右巻きである。殻色は濃い茶褐色で光沢がある。軟体部は暗褐色である。

国内の分布状況

北海道（知床半島や中・南部）から本州（主に日本海沿い）の島根県西部にまで分布する。日本海沿岸のブナ林に生息する種として知られている。

県内の分布状況

南砺市赤祖父山や黒部市音沢と鐘釣、魚津市平沢で確認されている。黒部市鐘釣の生息地は、2010 年代に新たに確認された。

生態・生息環境

ブナの原生林の朽木や落葉下に生息する。特に夏季は、ブナの樹幹に付着していることが多い。黒部市鐘釣では、落葉層中と石灰岩壁上に確認された。

生存への脅威（減少の要因）

開発による生息地の改変が、懸念材料として挙げられる。

保全対策

個体数が少ないことから、生息が確認できた場所は、保全すべきである。

特記事項

エチゴキセルガイモドキは本種の新参異名である。

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域準絶滅危惧 / 長野県（2015）絶滅危惧 I 類

文献

参考文献：33), 37), 56), 67), 70), 74), 78)

(文責：柏木 健司)



撮影：柏木 健司

コンボウギセル (マイマイ目・キセルガイ科)
Stereophaedusa hickonis (Boettger, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

山間地に生息する。県内での採集例が限られている。近年、北陸、東海、近畿、四国に分布（柏木, 2011・2012）。一般的に生息密度も低い。周辺県の実態を鑑み、準絶滅危惧種とした。

形態

殻高約 24～32mm、殻径 6.0～7.5mm でボーリングのピンのような棍棒状のキセルガイ。殻色は茶褐色で、殻表に弱い美しい彫刻がある。殻口は卵形で、その唇縁は白色で厚く反り返る。

国内の分布状況

北陸、東海、近畿、四国に分布する。

県内の分布状況

黒部市黒部峡谷鐘釣で採集例がある（柏木, 2011）。

生態・生息環境

倒木や落ち葉の堆積中に棲む。卵生。

生存への脅威（減少の要因）

広葉樹林の減少や林床の攪乱等による生息環境の悪化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 22), 33), 34), 54)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

オオタキコギセル (マイマイ目・キセルガイ科)
Euphaedusa digonoptyx (Boettger, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県内では、これまで魚津市、黒部市、砺波市や朝日町で生息記録があるが、近年、生息の報告がない。今回の調査において、魚津市で生息が確認できたが、生息密度は低く、生息範囲も限られていた。分布も限られることから、準絶滅危惧種とした。

形態

殻高約 14mm の小型のキセルガイ。殻は細長い紡錘形。殻色は暗褐色から黒紫褐色。殻口は洋梨型で、前に突き出る。殻口の周囲は白い。

国内の分布状況

東北～中国地方に分布。

県内の分布状況

これまで、南砺市城端町蓑谷、砺波市青島住宅の倒木、朝日町宮崎鹿島樹叢、黒部市三日市、魚津市小川寺など、県内に広く生息記録がある。近年、朝日町宮崎鹿島樹叢と魚津市平沢で生息が確認できた。

生態・生息環境

里山の樹林帯や社叢林に生息。神社の階段や墓石の上で見つかる。

生存への脅威（減少の要因）

里山の開発や森林伐採による生息地の消滅。

保全対策

個体数が少ないので、生息地は保全すべきである。森林伐採にあたっては林内の植生が早期の回復を図るようにする。

特記事項

ヒメコギセルは、本種と同種。
周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 22), 33), 34), 54), 67)

(文責：高山 茂樹)



撮影：瀧口 景子

ヤマタカマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Satsuma papilliformis (Kobelt, 1875)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

県内の生息記録は少ない。生息の記録がある場所で、生息環境が悪化しており、種の存続を圧迫していると考えられる。全国的にも著しく減少している。

形態

殻高約 30mm、殻径 25mm の卵型のマイマイ。殻の周縁に細く淡い茶褐色の帯がある。臍孔（さいこう）は閉じる。軟体は淡い茶褐色で顆粒状模様がある。

国内の分布状況

本州の長野県中南部から北陸、近畿、広島県東北部にかけて分布する。日本海側では、富山県が北限。

県内の分布状況

氷見の低山地や海岸付近の丘陵から報告がある。ほかに富山市や大山町、朝日町での採集例がある。氷見市で過去に記録がある場所で、生息状況の調査を行ったが、生息環境が失われ、確認できない場所があった。その後の再調査で生息が確認できたが生息数は少ない。

生態・生息環境

一般的に自然度の高い林内や川沿いの朽木、落葉の下など湿度の高い場所に生息する。樹上性。

生存への脅威（減少の要因）

開発に伴う自然林の伐採により、林床の乾燥化し、生息環境を減少させている。生息記録がある場所での自然林の伐採や道路や林道の整備の際は、生息環境の保全を考慮し、工事を実施すること。

保全対策

改修時に生存できる環境を残す。また、伐採後は、林内の植生が早期の回復を図るようにする。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）要注目 / 岐阜県（2015）準絶滅危惧 / 長野県（2015）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 25), 31), 37), 61), 67)

(文責：高山 茂樹)



撮影：瀧口 景子

タワラガイ (マイマイ目・タワラガイ科)

Sinoennea iwakawa (Pilsbry, 1900)

富山県 2025 カテゴリー：準絶滅危惧
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本種は、これまで氷見市小境朝日神社社叢でのみ記録されている。その後、20 年以上生息の記録がない。また、2024 年に現地調査を行ったが、発見できなかった。生息数の減少が懸念されることから、新たに準絶滅危惧種に選定した。

形態

殻高約 4mm、殻径約 1.5mm の微小貝。円筒形の貝殻で殻の表面に粗い縦肋がある。その形が米俵に似ていることからタワラガイの名前が付いた。軟体部は灰白色。

国内の分布状況

関東以南から奄美大島にかけて分布。

県内の分布状況

これまで生息記録がある氷見市小境朝日神社社叢でのみ記録されている。

生態・生息環境

丘陵地や神社社叢などの腐葉土が堆積した場所に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

森林開発を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧 / 長野県（2015）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 22), 31), 37), 61), 67)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ホラアナゴマオカチグサ近似種 (エゾタマキビ目・カワザンショウ科)

Cavernacmella aff. *kuzuensis* (Suzuki, 1937)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：絶滅危惧 I 類

選定理由

富山県内では、黒部市鐘釣の石灰岩分布域の石灰岩洞窟内で死殻が確認された。県内における生息地の広がりや個体数について、評価に足りるデータの蓄積が不十分な現状にある。鐘釣の石灰岩洞窟には本種の生息に適した生息環境が保全されており、生体が未確認であるものの、保全の観点から現状で情報不足と位置付ける。

形態

殻は卵円錐形で、殻高約 1.5～2.0mm、殻径 1.0～1.5mm である。縫合は深く明瞭である。螺層上には弱い成長線ないし螺溝が見られる。殻口は洋梨形を描く。軸唇は強く弧状となり、反転して臍孔（さいこう）の一部を覆う。外唇は薄く鋭い。臍孔は狭く深い。洋梨形で石灰質の蓋をもつ。生体の殻は半透明で、軟体が透けて見える。死殻は白濁する。

国内の分布状況

本州、四国、九州の石灰岩洞窟の湿った洞壁面上に確認できる。

県内の分布状況

黒部市鐘釣周辺の石灰岩洞窟内の洞床堆積物から死殻が確認された。県東部から南西部に至る山岳地に結晶質石灰岩ないし石灰質片麻岩の分布が知られ、石灰岩洞窟内に本種の生息が期待できる。

生態・生息環境

本邦で数少ない真洞窟性陸貝の一種である。石灰岩洞窟の洞内で、暗黒かつ湿度 100% に近く、気温が安定している洞窟環境を、排他的に生息環境とする。主に湿った壁面に生息する。国内の幾つかの観光鍾乳洞の観光ルート沿いの洞壁にも、生体が確認されている。

生存への脅威（減少の要因）

開発による洞窟の破壊、洞窟とその周辺の地表環境の改変は、洞窟環境に直接的ないし間接的に影響を与える。

保全対策

開発の際は、生息場としての洞窟と洞窟周辺の環境を包括するケイブシステム全体を広く保全する必要がある。

特記事項

ホラアナゴマオカチグサは当初、栃木県葛生の石灰岩体中の裂罅堆積物から産した化石個体を基に、新種として記載された。その後、本州から四国、九州の石灰岩洞窟の洞内から、現生種が確認されている。ミトコンドリア DNA に基づく解析は、本種群が洞窟ごとに別種である隠蔽種群であることを示す。

文献

参考文献：14), 24), 26), 32), 34), 56), 77)

(文責：柏木 健司)



撮影：柏木 健司

scale bars=1 mm

カワザンショウガイ (エゾタマキビ目・カワザンショウガイ科)

Assiminea japonica Martens, 1877

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山市八重津浜、氷見市で採集記録があるが、20 年以上にわたって採集されていない。本種は汽水域のヨシ帯に生息するが、ヨシ帯が減少しており、生息環境が失われていると考えられる。本種に関する現状が不明なことから、情報不足種とした。

形態

殻高 9mm。本種は、小型種のカワザンショウガイの仲間では大型。殻は円錐形で黄褐色、不明瞭な三本の暗色帯がある。成長脈は粗く、ややビロード状の殻皮で覆われる。

国内の分布状況

青森県から九州に分布。

県内の分布状況

富山市八重津浜、氷見市で採集記録がある

生態・生息環境

河川の汽水域のヨシ帯の岩や礫の上に生息する。生息している場所では群生する傾向がある。

生存への脅威（減少の要因）

河口域の工事に伴うヨシ帯の消滅や海岸の護岸工事による生息地の消滅。

保全対策

河口域の工事を行う際は、事前調査を行い、生息が確認できた際は、生息できる環境を残す必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 22), 47), 52), 67)



撮影：高山 茂樹

(文責：高山 茂樹)

ヤマトクビキレガイ (エゾタマキビ目・クビキレガイ科)

Truncatella pfeiffei Martens, 1860

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

高岡市伏木と氷見市蛇が島で採集記録がある（布村,1988）。その後、採集例がない。

海岸線の開発や護岸工事などで、生息環境が悪化している。

形態

殻高約 7mm、殻径約 2.5mm の円筒形。殻色は赤橙色から黄白色。幼貝は円錐形だが、成長とともに殻頂部が折れてしまうため「クビキレ」の名がある。殻表の縦肋は約 20 本。縦肋がないものもある。殻口は二重になる。石灰質の蓋がある。

国内の分布状況

北海道南部から南西諸島に分布。

県内の分布状況

これまで生息記録がある高岡市伏木は、かつては伏木国分浜をはじめ多くの種類の貝が打ち上がる場所と知られていた。しかし、平成元年から伏木外港として開発工事が行われ、環境が大きく変わった。現在、国分浜の打ち上げ貝は減少しており、ヤマトクビキレガイの生息環境も悪化していると思われる。氷見市蛇が島は、名所・天然記念物に指定されており、人の上陸は規制され、動植物が保護されている。2024 年に陸貝の調査を行ったが、生息の確認はできなかった。

生態・生息環境

波の影響をあまり受けない飛沫帯の転石の下部の砂混じりの腐植土の中や打ち上げゴミの溜まっている場所などに生息している。

生存への脅威（減少の要因）

波の影響をあまり受けない飛沫帯の限られた条件の場所に生息するので、海岸の開発行為や護岸工事などで、生息環境が失われることが考えられる。他県の例では、局所的に生息している例が多いので、環境変化に弱く、死滅することが考えられる。

保全対策

改修する時は、事前に調査を実施し、生息が確認できた場合は、生息できる場所を残す必要がある。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：5), 22), 67)



撮影：高山 茂樹

(文責：高山 茂樹)

ハマシイノミガイ (オカミミガイ目・オカミミガイ科)

Melampus nuxeastaneus Kuroda, 1949

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本種が好む海岸近くのヨシ原や転石地帯が減少している。打ち上げ貝では確認されているが、生貝は見つかっていない。2021 年 12 月に富山市浜黒崎で打ち上げ貝が新たに採集されたが、カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない (吉岡, 2022)。

形態

殻高約 15mm、殻径 10mm の巻貝。殻はやや厚く、肩はなで肩。殻色は紫褐色で光沢が強い。数本の色帯のある個体もある。殻口に 6~7 個の歯 (突起) がある。臍孔 (さいこう) は閉じている。

国内の分布状況

関東、北陸以南。

県内の分布状況

氷見市、高岡市伏木、富山市浜黒崎

生態・生息環境

海岸近くのヨシ原の転石の下や海岸近くの石の下やコンクリート護岸の隙間。

生存への脅威 (減少の要因)

護岸工事による生息環境の消失。

保全対策

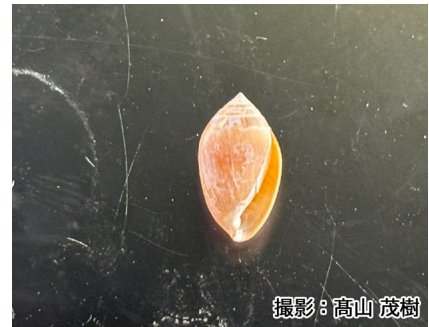
個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：(67), (84)



撮影：高山 茂樹

(文責：高山 茂樹)

キセルガイモドキ (マイマイ目・キセルモドキ科)

Mirus reinianus (Kobelt, 1875)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足

環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

本種は山間地に主に生息し、県西部の丘陵地でも知られる。県内での採集例は多くはなく、カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻は紡錘形で、殻高約 23~34 mm の殻径約 8~12 mm である。右巻きで、主に黄褐色の殻色を呈する。殻口は白く肥厚し、大きく反転する。殻の外形とサイズは、産地間のみならず、同一産地内でも変異がみられる。

国内の分布状況

本州、四国、九州と広範囲に分布する。

県内の分布状況

南砺市赤祖父山、高岡市頭川、立山町、黒部市鐘釣、朝日町宮崎鹿島樹叢でこれまで報告されている。朝日町宮崎鹿島樹叢では、2010 年代の調査で生息が確認されなかった。南砺市利賀村大勘場で、軟体部を伴う死殻を 2024 年 8 月 27 日に確認した。

生態・生息環境

広葉樹の林床落葉下や樹幹など、やや乾燥気味の環境に生息する。

生存への脅威 (減少の要因)

広葉樹林の減少や林床の攪乱等による生息環境の悪化が、懸念材料として挙げられる。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

富山県周辺の県での指定状況：新潟県 (2021) 準絶滅危惧

文献

参考文献：(27), (36), (37), (56), (67), (70), (80)



撮影：柏木 健司

(文責：柏木 健司)

オクガタギセル (マイマイ目・キセルガイ科)
Megalophaedusa dorcas (Pilsbry, 1902)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：準絶滅危惧

選定理由

本種が山間地に生息するが、これまで県内での採集例に限られている。近年、黒部市黒部峡谷鐘釣で記録された（柏木, 2011・2012）。一般的に生息密度も低く、カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高約 27～30mm でキセルガイの仲間では大型。殻皮は平滑。光沢は弱い。下腔襞（こうへき）が上腔襞に比較されるほど大きい。

国内の分布状況

関東から中部、北陸に分布する。

県内の分布状況

富山市（旧大山町）の千長原松峠や有峰、（旧八尾町）桐谷、黒部市黒部峡谷鐘釣で採集例がある。

生態・生息環境

広葉樹の林床落葉下や樹幹など、やや乾燥気味の環境に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

広葉樹林の減少や林床の攪乱等による生息環境の悪化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域準絶滅危惧 / 岐阜県（2015）準絶滅危惧 / 長野県（2015）絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 33), 34), 37), 54), 61), 67)



撮影：高山 茂樹

（文責：高山 茂樹）

ナミコギセル (マイマイ目・キセルガイ科)
Tauphaedusa tau (Boettger, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

生息数の減少が懸念されるが、カテゴリーを決める情報がないことから、情報不足に選定した。

形態

殻高約 10mm、殻径約 3mm の小型種。殻は紡錘形。殻色は黄褐色で、光沢があり、半透明。螺塔はやや尖り、縫合は深い。殻口は広く倒卵型。

国内の分布状況

関東から近畿、中国地方、四国にかけて分布。

県内の分布状況

これまで上市町法音寺、富山市安田町で生息記録がある。

生態・生息環境

低山の森林に囲まれた神社の社叢周辺の石段や石灯籠などで見つかる。富山県の状況は不明。

生存への脅威（減少の要因）

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

開発や改修を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 22), 37), 54), 67), 69)



撮影：高山 茂樹

（文責：高山 茂樹）

タカキビ (マイマイ目・ベッコウマイマイ科)
Coneuplecta praealta (Pilsbry, 1902)

富山県 2025 カテゴリ：情報不足
環境省 2020 カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

富山県での報告例は少ない。そのため、カテゴリーを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高約 4mm、殻径約 2.5mm の小型のマイマイ。殻は高い円錐形で、薄い貝殻。殻色は淡い褐色で平滑、光沢がある。軟体は淡いあめ色。黒い触角の先に眼がある。

国内の分布状況

本州から九州に分布する。

県内の分布状況

朝日町鹿島樹叢や魚津市片貝で確認されている。

生態・生息環境

山地の森林の中の湿潤な環境の低木の葉の裏や落ち葉の中に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

開発による生息環境の改変。森林伐採。生息地の乾燥化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。

周辺の県での指定状況：福井県（2016）要注目 / 岐阜県（2015）情報不足 / 長野県（2015）留意種

文献

参考文献：5), 8), 10), 37), 61), 67)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

ツノイロヒメベッコウ (マイマイ目・ベッコウマイマイ科)
Ceratochlamys ceratodes (Gude, 1900)

富山県 2025 カテゴリ：情報不足
環境省 2020 カテゴリ：該当なし

選定理由

本種は、富山市三熊周辺のスギ林で記録されているが、報告は少ない。カテゴリーを決めるだけの情報がないことから、情報不足とした。

形態

殻高 3.5mm、殻径約 5mm の小型種。殻は薄く半透明、淡い黄色。殻の周縁角が顕著で、その上に溝ができるので、縫合線が二重になる。軟体は黒味のある褐色。

国内の分布状況

本州・四国・九州にかけて分布。

県内の分布状況

富山市山田赤目谷の杉林で記録されている。

生態・生息環境

山地の腐葉土が堆積した場所に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

開発を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：5), 37), 59), 67)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

ミドリベッコウ (マイマイ目・ベッコウマイマイ科)
Bekkochlamys kagaensis (Pilsbry et Hirase, 1902)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：情報不足

選定理由

本種が山間地に生息するが、県内での採集例が少ない。近年、黒部市黒部峡谷鐘釣で記録された（柏木, 2011・2012）。一般的に生息密度も低い。カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高 12mm、殻径 17mm 程度でベッコウマイマイの仲間としてはやや大型。貝殻は、種名にあるように少し緑色がかった黄褐色で、光沢がある。

国内の分布状況

石川県白山が模式山地で、富山県・福井県・石川県・岐阜県・長野県に分布する。

県内の分布状況

黒部市鐘釣で報告された。

生態・生息環境

落葉広葉樹林の林内や林縁の朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。発達した外套幕(がいとうまく)で殻を包み細い足で地上を移動する。

生存への脅威(減少の要因)

樹林の伐採による生息環境の悪化及び農薬の散布など。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）情報不足 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県（2015）情報不足

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 33), 34)

(文責：高山 茂樹)



ウラジロベッコウ (マイマイ目・ベッコウマイマイ科)
Urazirochlamys doenitzii (Reinhardt, 1877)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

古くは、小矢部市砺波山と朝日町宮崎の記録があるが、80 年以上前の記録である。近年、黒部市黒部峡谷鐘釣で生息が確認された。本種は、生息密度が低いと思われるが、カテゴリーを決めるだけの情報がないことから、情報不足とした。

形態

殻高 3.5mm、殻径約 7mm の小型種。殻は薄くて扁平で、半透明で光沢が強い。縫合に白色の縁がある。殻の上面は透明でやや黄色がかかり、底面は中ほどから白くなる。狭い臍孔(さいこう)がある。軟体部は灰白色で頭部と触角が暗黒色。

国内の分布状況

本州・四国・九州にかけて分布。

県内の分布状況

菊池（1940）に産地として礪波山と朝日町宮崎が記録されている。以後、記録がなかった。近年、黒部市黒部峡谷鐘釣で（湊・柏木・古見, 2020）で確認された。

生態・生息環境

自然林の溪流沿いの落葉や小石などが堆積する穏やかな斜面に生息する。富山県の状況は不明。

生存への脅威(減少の要因)

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

森林開発を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：5), 37), 56)

(文責：高山 茂樹)



カズマキベッコウ (マイマイ目・ベッコウマイマイ科)

Japanochlamys decens (Pilsbry et Hirase, 1904)

富山県 2025 カテゴリ: 情報不足

環境省 2020 カテゴリ: 情報不足

選定理由

本種が山間地に生息するが、県内での採集例が少ない。近年、朝日町宮崎鹿嶋樹叢で記録された。一般的に生息密度も低い。カテゴリーを特定するだけの情報が得られていない。

形態

殻高 3.4mm、殻径 5.4mm 程度の小型のベッコウマイマイの仲間。殻の形は、偏球形で螺塔は低円錐形。殻は薄くやや透明でくすんだ琥珀色。また、また、光沢があり、不規則な皺状の成長線がある。

国内の分布状況

新潟県、石川県、長野県、栃木県に分布する。

県内の分布状況

これまで高岡市伏木国府で記録されていた。近年、朝日町宮崎鹿嶋樹叢で記録された（金安, 2018）。

生態・生息環境

落葉広葉樹林の林内の落葉の下など湿度の高い場所に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

樹林の伐採による生息環境の悪化、乾燥化及び農薬の散布など。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）準絶滅危惧 / 長野県（2016）留意種

文献

参考文献：5), 22), 27), 37), 63)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

ナメクジ (マイマイ目・ナメクジ科)

Meghimatium bilineatum (Benson, 1842)

富山県 2025 カテゴリ: 情報不足

環境省 2020 カテゴリ: 該当なし

選定理由

在来種のナメクジは、以前は市街地を庭や家庭菜園そして家の中の湿ったところで普通に見つかった。ナメクジは新芽や若葉を舐めるように食べたり、イチゴに穴を開けるなどの食害から、害虫の仲間扱われてきた。近年、都市部で在来種のナメクジは見ることがなくなり、ヨーロッパ原産のコウラナメクジ科のチャコウラナメクジ *Ambigolimax valentianus* しか見つからなくなった。ナメクジに関する調査記録はないが、都市部で急速に減少していることから、注意をする必要がある種として、情報不足に選定した。

形態

体長 40~70mm、幅 10mm 程度、軟体に殻がなく、外套膜で体を覆っている。体色は淡い灰褐色。体の両側に黒色の縦帯がある。また、背側中央にも不明瞭な黒色の縦帯がある。足は灰白色。頭部の一対の大触角の先端に眼がある。大触角の下に一対の小触角がある。

国内の分布状況

かつて日本全国に分布していた。現在、都市部ではナメクジからチャコウラナメクジに入れ替わりつつある。

県内の分布状況

40 年ほど前までは、畑でナメクジは普通に見つかった。しかしながら、チャコウラナメクジの侵後、ナメクジが急速に減少し、現在はチャコウラナメクジに入れ替わってきている。

生態・生息環境

都市部より郊外の人家から森に生息する。雌雄同体で、年に 1 回、3~6 月に鉛色の卵を産む。卵は 40 粒内外の卵塊としてゼラチン質に包まれ、小枝や雑草に産みつけられる。これからかえった幼体は、秋までに成熟して、土中又は積まれた石の下などで越冬する。

生存への脅威（減少の要因）

ナメクジに競合するチャコウラナメクジは、繁殖力が強く、チャコウラナメクジが侵入するとナメクジが駆逐されると考えられている。

保全対策

ナメクジとチャコウラナメクジは、野菜を食害する生物として扱われ、駆除のための薬剤が販売されている。ナメクジとチャコウラナメクジについての区別などの情報の周知が重要と考えられる。

特記事項

他のナメクジ類と区別をする目的で、フタスジナメクジと称されることがある。広東住血吸虫の中間宿主になっている可能性がある。富山県の近県では、ナメクジが指定されている県はない。しかしながら、愛媛県（2025）で準絶滅危惧種に指定されている。

周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：5), 6), 37), 63), 78)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

コシタカコベソマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)

Satsuma fusca (Gude, 1900)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足

環境省 2020 カテゴリー: 準絶滅危惧

選定理由

本種は、生息地が限定され、生息密度が低い種といわれている。生息数の減少が懸念されるが、カテゴリーを決めるだけの資料がないことから、情報不足とした。

形態

殻高 40mm、殻径約 44mm になる大型の種。殻は赤褐色～淡い黄褐色。螺旋塔が高い。殻の周縁に色帯がある。軟体の背面は淡いあめ色。

国内の分布状況

近畿北部から北陸、中部。

県内の分布状況

これまでに朝日町宮崎鹿嶋樹叢、富山市大山町小坂、立山町千寿ヶ原、立山町美女平などで生息の記録がある。

生態・生息環境

コナラ林からミズナラやブナ林の広がる温帯落葉広葉樹林の林床に生息。山地の湿気のある落葉広葉樹の落葉のや倒木の下に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

森林開発を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）絶滅危惧Ⅱ類 / 石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）要注目 / 岐阜県（2015）準絶滅危惧 / 長野県（2015）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 36), 37), 59), 63), 67)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ココロマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)

Satsuma cardiostoma (Kobelt, 1879)

富山県 2025 カテゴリー: 情報不足

環境省 2020 カテゴリー: 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

富山県は分布の北限に近い。30 年以上にわたって生息が確認されていない。カテゴリーを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高約 14mm の小型のマイマイ。殻は球状の円錐形。殻表は滑らかで光沢がある。また、周縁に不明瞭な淡い白色の帯がある。殻色は黄色みがかった栗色。殻口は円から三角形。臍孔（さいこう）は閉じる。

国内の分布状況

石川県、福井県、岐阜県、京都府、滋賀県、兵庫県などで採集記録がある（湊, 1997）。

県内の分布状況

立山町芦峯寺、富山市大山町大双嶺、富山市水橋、富山市八尾町仁歩大谷で採集記録がある。分布の末端の記録の可能性もある。

生態・生息環境

日本海沿岸の山地のブナ・ミズナラ帯の沢沿いの茂みに生息。個体密度は大変低い。

生存への脅威（減少の要因）

植林や伐採などの開発による生息環境の改変。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。

周辺の県での指定状況：石川県（2020）絶滅危惧Ⅱ類 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県（2015）絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 37), 55), 67)

(文責：高山 茂樹)



撮影：高山 茂樹

ケハダビロウドマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Nipponochloritis fragilis (Gude, 1900)

富山県 2025 カテゴリ：情報不足
環境省 2020 カテゴリ：準絶滅危惧

選定理由

生息個体数の少ないマイマイで、富山県での報告例は少ない。そのため、カテゴリーを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高約 16mm、殻径約 20mm の小型のマイマイ。殻色は、黄褐色。殻の表面に比較的荒い針毛様の殻皮が発達する。そのため、ビロードを纏っているように見える。狭い臍孔（さいこう）がある。

国内の分布状況

北陸地方から近畿地方に生息する。

県内の分布状況

高岡市伏木一宮気多神社裏や国分、氷見市磯部や白川、小矢部市俱利伽羅、立山町岩峠寺、旧宇奈月町、上市町、富山市呉羽山で記録があり、県内山間部に広く分布する。

生態・生息環境

林内の朽木や石の下面など湿度の高い場所に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

開発による生息環境の改変。森林伐採。生息地の乾燥化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。

周辺の県での指定状況：新潟県（2021）準絶滅危惧 / 石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅱ類 / 岐阜県（2015）準絶滅危惧

文献

参考文献：5), 8), 10), 22), 25), 37), 63), 67), 78)

（文責：高山 茂樹）



撮影：高山 茂樹

エチゼンビロウドマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Nipponochloritis echizenensis (Pilsbry & Hirase, 1903)

富山県 2025 カテゴリ：情報不足
環境省 2020 カテゴリ：情報不足

選定理由

古くは、魚津市西布施の記録があるが、80 年以上前の記録である。近年、黒部市黒部峡谷鐘釣で生息が確認された。本種は、生息密度が低いと思われるが、カテゴリーを決めるだけの情報がないことから、情報不足とした。

形態

殻高 15mm、殻径約 19.5mm。殻は濃い黄褐色。螺塔が低く、体層が急に大きくなる。殻皮に短い毛が密集している。軟体部は暗黒色。

国内の分布状況

福井県から富山県にかけて及び近畿地方、中国地方に分布。

県内の分布状況

菊池（1940）に産地として魚津市西布施が記録されている。以後、記録がなかったが、近年、黒部市黒部峡谷鐘釣（湊・柏木・古見, 2020）で確認された。

生態・生息環境

山地の湿気のある落葉広葉樹の落葉や倒木の下に生息。

生存への脅威（減少の要因）

開発による木々の伐採や生息地の乾燥化。

保全対策

森林開発を行う際は、本種が生息できる環境を考慮するとともに、本種の保全に努める。

特記事項

周辺の県での指定状況：石川県（2020）準絶滅危惧 / 福井県（2016）県域絶滅危惧Ⅱ類

文献

参考文献：5), 10), 22), 37), 56), 78)

（文責：高山 茂樹）

コオオベソマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Aegista mimula (Pilsbry, 1901)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

富山県での報告例は少ない。そのため、カテゴリーを特定できるだけの情報が得られていない。

形態

殻高 5～7.5mm、殻径 9～11mm。殻は扁平で、薄い。殻色は褐色で光沢がない。殻表に微細な毛が生えている。体層の周辺は円いが、弱く角ばる。臍孔（さいこう）が広く開く。体は褐色。

国内の分布状況

秋田県から島根県、香川県に生息する。

県内の分布状況

魚津市島尻で記録があるが、絶滅した。近年、朝日町鹿島樹叢で生息が確認されたが、生息数は少ない（金安, 2018）。

生態・生息環境

山地の落ち葉や腐葉土の堆積した場所に生息する。

生存への脅威（減少の要因）

開発による生息環境の改変。森林伐採。生息地の乾燥化。

保全対策

個体数が少ないので、生息が確認できた場所は保全すべきである。

特記事項

早急の生息状況調査が待たれる。
周辺の県での指定状況：該当なし

文献

参考文献：5), 27), 37), 67), 78)



撮影：高山 茂樹

（文責：高山 茂樹）

コガネマイマイ (マイマイ目・ナンバンマイマイ科)
Euhadra sandai sandai (Kobelt, 1879)

富山県 2025 カテゴリー：情報不足
環境省 2020 カテゴリー：該当なし

選定理由

近年、県内での採集例がない。富山県が分布の北限にあたり、生物地理上も重要。

形態

殻高約 20mm、殻径 40mm で扁平な中型のマイマイ。殻皮に黒褐色の色帯を持ち、成長脈に添って鮮黄色の火炎彩模様が著しく現われる。臍穴は広く緩やかで浅い。軟体部は黒灰色で背面上に黒縦帯がある。

国内の分布状況

北陸から近畿北部に分布。

県内の分布状況

砺波市で採集例がある。

生態・生息環境

低山地の樹上に生息。

生存への脅威（減少の要因）

宅地造成や林道開発などで、本種が生息する落葉広葉樹の減少。

保全対策

生息が確認された場所は保全すべきである。

特記事項

富山県が本種の分布の北限。
周辺の県での指定状況：福井県（2016）県域絶滅危惧

文献

参考文献：5), 10), 37), 67)



撮影：高山 茂樹

（文責：高山 茂樹）

＝参考・引用文献＝

- 1) 安部武雄, 1974. 二上山の陸産貝類 (淡水産を含む) 中間報告. 富山県生物学会誌, (14) : 1-5.
- 2) 安部武雄, 1975. 二上山に棲む貝類. 二上山, 創刊号 : 11-13.
- 3) 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 2020. レッドデータブックあいち 2020.
URL: <https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/index.html> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 4) 愛知県環境局環境政策部自然環境課, 2025. 第五次レッドリスト「レッドリストあいち 2025」.
URL: <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/561784.pdf> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 5) 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版). 保育社, 大阪. xvi + 343 p.+ 80 pls.
- 6) 愛媛県自然保護課, 2025. 愛媛県レッドリスト 2024.
URL: <https://www.pref.ehime.jp/page/17989.html> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 7) 土井捷三郎, 1993. 富山県におけるマシジミの分布. 富山県水産試験場研究報告, (4) : 53-56
- 8) 岐阜県環境生活政策課, 2015. 岐阜県レッドデータブック (動物編) 改訂版 7. 貝類.
URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/4345.html> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 9) 福田 宏・齋藤 匠, 2020. スジイリカワコザラ. 環境省レッドリスト 2020 補遺資料 (環境省自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 編). 環境省. 東京. p.50.
URL: <https://www.env.go.jp/press/files/jp/113629.pdf> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 10) 福井県自然環境課, 2016. 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物.
URL: <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/rdb/rdb.html> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 11) 福本一彦, 2022. カタドブガイ. レッドデータブックとっとり第 3 版 2022 (鳥取県生活環境部緑豊かな自然課 編). 鳥取. 200pp.
- 12) 不破光大・木村知晴・稲村 修, 2014. 富山県のいけるマツカサガイの新たな生息地の発見. 魚津水族博物館年報, (23) : 21-24.
- 13) 不破光大・木村知晴・稲村 修・齋藤真里, 2020. 富山県におけるイシマキガイの新たな生息の発見. 魚津水族博物館年報, (29) : 33-37.
- 14) Habe, T. 1942. On the recent specimen of *Paludinella* (*Cavernacmella* new subgen.) *kuzuensis*, with a list of known species of the Japanese cavernicolous molluscs. *Venus*, 12 (1-2), 28-32.
- 15) 波部忠重, 1973. 軟体動物. 日本淡水生物学 (川村多実二 原著). pp.309-341. 北隆館. 東京.
- 16) 波部忠重, 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱, 掘足綱. 北隆館. 東京. 372pp.
- 17) 波部忠重・湊 宏, 1991. 陸・淡水産貝類. 日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 無脊椎動物編 (環境庁自然保護局 (編)). pp.117-209. 日本野生生物研究センター. 東京.
- 18) 長谷部秀平・柏木健司・早瀬善正, 2025. 富山県東部におけるサドヤマトガイの新分布記録. ちりぼたん, 55 (1-2): 68-81
- 19) 早瀬善正, 2008. 静岡市清水区能島遊水地におけるナガオカモノアラガイの生活史. 兵庫陸水生物, (60) : 151-157.
- 20) 平野克己・藤原次男, 1987. マシジミの成長と寿命. 水産増殖, 35 (3) : 183-189.
- 21) Iiyama, H., 2008. Morphological Review of *Pisidium kawamurai hukuiense* Mori, 1938 and *Pisidium japonicum* Pilsbry and Hirase, 1908 (Bivalvia: Sphaeriidae). *VENUS*, 66(3-4) : 161-167.
- 22) 石川県生活環境部自然環境課, 2020. いしかわレッドデータブック 2020.
URL: https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/reddata/rdb2020/documents/08_rdb2020_doubutu_7-kairui_280-318.pdf (2025 年 6 月 20 日確認).

- 23) 伊藤寿茂・垣野 亘・成田 勝・竹内 基, 2022. 実験飼育下で判明したカタドブガイ幼生の宿主魚類. *VENUS*, 80 : 25–34.
- 24) 伊藤良吉, 1967. ホラアナゴマオカチグサの分布について. 秋吉台科学博物館報告, (4): 83–87.
- 25) 藺生弘美, 1999. 第7章 貝類. 氷見市史9 資料編七 自然環境 (氷見市史編さん委員会 編). pp327–366. 氷見市. 富山.
- 26) 亀田勇一・川北 篤・加藤 真, 2008. 「ホラアナゴマオカチグサ」は洞窟ごとに別種である. *Venus*, 67 (1–2): 99.
- 27) 金安健一, 2018. 富山県宮崎鹿島神社社叢林 (鹿島樹叢) の陸産貝類. しぶきつば, (39): 17–22.
- 28) 環境庁自然保護局野生生物課 (編), 1998. 日本産野生生物目録 (3) – 本邦産野生動植物の種の現状. 財団法人自然環境研究センター. 山梨. 49pp.
- 29) 環境省, 2002. [陸産及び淡水産貝類]. 生物多様性調査 動物分布調査報告書 (上) (下). pp.1–654(上), pp.655–1342 (下). 環境省自然保護局生物多様性センター. 山梨.
- 30) 環境省自然環境局野生生物課, 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック 6—陸・淡水産貝類. 財団法人自然環境研究センター. 山梨. 420pp.
- 31) 環境省 (編), 2014. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—貝類. 環境省. 東京. 455pp.
- 32) 狩野彰宏・柏木健司 (編著), 2025. 図説 日本の洞窟. 朝倉書店. 東京. 200pp.
- 33) 柏木健司, 2011. 富山県東部の黒部峡谷鐘釣地域の陸産貝類: ヤマキサゴ科・オナジマイマイ科・ナンバンマイマイ科・ベッコウマイマイ科・キセルガイモドキ科. 富山の生物, (50) : 71–78.
- 34) 柏木健司, 2012. 富山県東部の黒部峡谷鐘釣地域の陸産貝類: 富山県初記録のホラアナゴマオカチグサ (カワザンショウガイ科). 富山市科学博物館研究報告, (35) : 113–117.
- 35) 川端義信, 2004. 能登半島産の軟体動物目録. 七尾市少年科学館研究報告, (8) : 43–82.
- 36) 菊池勘左衛門, 1937. 富山県宮崎鹿島社叢の陸産貝類. 富山高等学校博物同好会誌, (2): 32–41.
- 37) 菊池勘左衛門, 1940. 富山県の陸産貝類目録. 富山高等学校博物同好会誌, (4): 5–20.
- 38) 木村昭一, 2002. カタハガイ. 「レッドデータブックあいち動物編」. pp.399. 愛知県. 愛知.
- 39) 木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, 32 : 22–27.
- 40) 北村淳一・内山りゅう・熊谷正裕, 2020. イシガイ目二枚貝の生活史と図鑑. 日本のタナゴ生態・保全・文化の図鑑. pp.166–171. 株式会社山と溪谷社. 東京.
- 41) Kondo, T., 1982. Taxonomic revision of Inversidens (Bivalvia:Unionidae). *Venus*, 41(3):181–198.
- 42) 近藤高貴, 2002. カタハガイ. 京都府レッドデータブック上 (野生生物編). pp.500. 京都府.
- 43) 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物 (3), v + 69 p.
- 44) 近藤高貴, 2020. イシガイ科貝類の新たな分類体系. ちりばたん, 50 : 294–296.
- 45) 近藤高貴, 2023. マツカサガイ (二枚貝綱, イシガイ科) の同定とそのタイプ産地に関する推測. *Venus*, 81 (1–4) : 39–46.
- 46) 黒住耐二・岡本正豊, 1994. ミズゴマツボを千葉県の水田で確認. ちりばたん, 2(3/4) : 84.
- 47) 増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ. 東京. 240pp.
- 48) 増田 修・内山りゅう, 2010. 日本産貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類第2刷. 株式会社ピーシーズ. 東京. 239pp.
- 49) 松隈明彦, 1986. イシガイ目. 決定版 生物大図鑑 貝類 (奥谷喬司 (編著)). pp300–301. 世界文化社. 東京.
- 50) 湊 宏, 1973. 白山産オオミケマイマイの生殖腺知見. *Venus*, 32 (1) : 25–26.

- 51) 湊 宏, 1980. ヤママメタニシーその形態・生態・分布ー. 南紀生物, 22(2) : 77-79.
- 52) 湊 宏, 1986. カワザンショウガイ科. 決定版 生物大図鑑 貝類 (奥谷喬司 (編著)) . pp72-73. 世界文化社. 東京.
- 53) 湊 宏, 1987. "日本海要素"分布をするイツマデガイ類. 南紀生物, 29(1) : 21-24.
- 54) 湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus, Supplement (2) : 212 pp.
- 55) 湊 宏, 1997. ココロマイマイ : その研究経過・形態(貝殻・生殖器)・分布. ちりぼたん, 28 (2) : 25-29.
- 56) 湊 宏・柏木健司・古見 浩, 2020. 富山県東部の黒部峡谷 (宇奈月一櫓平間) から記録された陸産貝類. ちりぼたん, 50 (1) : 125-141.
- 57) Motochin R., Wang M., Ueshima R, 2017. Molecular phylogeny, frequent parallel evolution and new system of Japanese Clausiliid land snails (Gastropoda: Stylommatophora). Zoological Journal of the Linnean Society, 181 (4) : 795-845.
- 58) 宮本 望, 1993. 富山県新記録の陸貝. 富山市科学文化センター研究報告, 16pp.
- 59) 宮本 望・布村 昇, 2006. 富山市の里山における陸産貝類. 里山 (富山県中央部) の自然環境調査報告書Ⅱ 植物・動物. その他編. pp.121-124. 富山市科学文化センター. 富山.
- 60) 邑本順亮, 1999. 高岡古城公園の淡水貝類. JANOLUS (高岡生物研究会誌) , (100) : 121-129.
- 61) 長野県環境部自然保護課, 2015. 長野県版レッドリスト (動物編) 2015.
URL:<https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/kisyoyasei/redlist/redlist-download.html> (2025 年 6 月 20 日確認)
- 62) 新潟県, 2001. 陸・淡水産貝類, 淡水産プラナリア類. レッドデータブックにいがたー新潟県の保護上重要な野生生物ー. pp.102-129. 新潟県環境生活部環境企画課. 新潟.
- 63) 新潟県, 2021. 新潟県第 2 次レッドリスト (陸・淡水産貝類, 淡水産プラナリア類).
URL: <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kankyotaisaku/kai-puranaria2.html> (2025 年 6 月 20 日確認).
- 64) 野村卓之・高橋 久, 2021. 河北潟とその周辺流域の陸・淡水産貝類. 河北潟総合研究, 24 : 9-18.
- 65) Nordsieck, H. 2007. Worldwide door snails (Clausiliidae), recent and fossil. 214pp. ConchBooks. Hackenheim.
- 66) 布村 昇, 1987. いたち川の無脊椎動物 (昆虫を除く). 富山市科学文化センター研究報告, (10) : 73-76.
- 67) 布村 昇 (編・著), 1988. 高柳コレクションを中心とした富山と能登の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録 (2). 富山市科学文化センター. 富山. 128 pp.
- 68) 布村 昇, 1991. 淡水無脊椎動物. 富山市浜黒崎海岸自然調査報告書. pp.69-70. 富山市科学文化センター.
- 69) 布村 昇・宮本 望, 1994. 富山市の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (7). 95pp.
- 70) 布村 昇 (編), 1997. 菊池勘左エ門貝コレクション. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (10). 富山市科学博物館友の会. 富山. 133 pp.
- 71) 布村 昇, 1998. いたち川の無脊椎動物. いたち川の自然環境報告. pp.63-72. 富山市科学文化センター.
- 72) 布村 昇, 2006. 富山市の里山における淡水無脊椎動物. 里山 (富山県中央部) の自然環境調査報告書Ⅱ 植物・動物. その他編. pp.125-130. 富山市科学文化センター. 富山.
- 73) 布村 昇・石井 清・平内好子, 2007. 猫池の大型土壌動物. 富山の生物, (47) : 77.
- 74) 布村 昇 (編), 2008. 宮本望氏貝コレクションⅡ 日本産陸産・日本近海産二枚貝など. 富山市科学博物館収蔵資料目録 (22). 富山市科学博物館. 富山. 191 pp.
- 75) 坂井恵一, 2014. 七尾市で見つかったカタハガイ. 能登の海中林 : 7.
- 76) 水産庁 (編), 1998. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック. 社団法人日本水産資源保護協会. 東京. 437pp.

- 77) Suzuki, K. 1937. Some fossil terrestrial gastropods from Tuizi, Kuzuu-mati, Totigi Prefecture. The Journal of the Geological Society of Japan, 44 (524), 438–443, 1pl.
- 78) 高山茂樹, 2020. vii 貝類. 魚津市史 自然編. pp. 267–278. 魚津市史編纂委員会. 魚津.
- 79) 高山茂樹・不破光大・佐藤詩恵, 2008. 角川のイシマキガイ. 富山の生物, (47) : 51–62.
- 80) 高山茂樹・瀧口景子・布村 昇・宮本 望, 2014. 2011–2013 年に確認できた宮崎鹿島樹叢の陸産貝類. 富山の生物, (53) : 97–100.
- 81) 富山県動物生態研究会, 1995. 富山県の淡水貝類. 富山県の水生生物. pp.16–70. 富山県.
- 82) 富山県教育委員会, 1991. 富山のイタセンバラ I. 富山県教育委員会. 15pp.
- 83) 横山 寿, 2019. 外来シジミ類の分類と生態 – I 日本と世界における侵入・拡散. 陸水学雑誌, 80 : 125–144.
- 84) 吉岡 翼, 2022. 富山湾岸浜黒崎海岸に漂着したハマシイノミガイ (腹足綱: オカミミガイ科). 漂着物学会誌, 20 : 42.